上野地域における装飾付大刀の基礎調査

徳　江　秀　夫

1　は　じ　め　に

刀剣は古墳時代全般を通じて多数目に触れることのできる遺物の一つである。群馬県前橋市に所在する前橋天神山古墳は、全長126mの規模を有する前方後円墳で、上野地域の古墳時代前期を代表する古墳であるが、後円部に設置された全長8mに及ぶ長大な粘土槨からは三角縁神獣鏡をはじめとした多数の副葬品に混じって5本の直刀が出土している。その中には刀長が1mに近い素環頭大刀も含まれている。上野地域の弥生時代後半には、渋川市有馬遺跡出土をはじめとした少数例の鉄剣の出土が知られるのみであり、両時代の武器はその刀長を単純に比較しただけでもその殺傷力は著しく伸長したものと思われる。それにも増して佩用者の権威の象徴としての度合は急激に飛躍したことと想定できる。

その後、5世紀後半から6世紀になると「飾大刀」や「装飾付大刀」と呼称される金銅鋳造の柄頭を有したり、柄頭から鞘尻に至るまで、刀装具のすべてが金属装という装飾性豊かな大刀が出現する。このことは大刀がそれまで兼備していた武器本来としての殺傷力と権威の象徴の誇示という機能をその製作時点で明確に分離させ、当初から目的に即した大刀が生産されたことを物語っている。これらの大刀は、その形状や文様、意匠の検討から導き出せる系統的な編年作業や佩用者の性格付けなどに分析の視点が置かれ、多数の研究成果が導き出されている。[注1] 筆者もかつて邑楽郡千代田町堂山古墳出土の頭椎大刀や勢多郡大胡町出土の獅嚙環頭大刀を観察する機会を得た際に、先学の研究成果に触れたが、多種ある装飾付大刀のいずれにも上野地域出土の資料が多数存在することを知るとともにこれらの大刀が当該地域の古墳時代後半の遺物を代表するものの一つであることを理解した。また、それとともにその中にも多少の資料の欠落があることが認められ、装飾付大刀の出土例調査の必要性もあわせて感じ、基礎資料の集成と出土地名表の作成を開始した。今回はその途中経過について、先学の研究成果に学びつつ報告したい。

2　各種装飾付大刀の概要

A.単竜・単鳳環頭大刀

上野地域出土の単竜・単鳳環頭大刀は合計で14口を確認することができたがこの中には出土地の記載のみで現在では詳細な内容を把握することが困難なものも含まれている。

単竜環頭大刀は3口ある。伝高崎市倉賀野町出土例（図1－2）は環径が4.6×5.8cmで、竜頭の角が後方に長く延びており、穴沢咏光・馬目順一両氏の分類の塚原系列であることが指摘されている。塚原系列には藤岡市皇子塚古墳出土例（図1－4）も含まれる。環径4.6×6.5cmのもの

で歯を剝き出しにした竜頭が造作されている。この把頭は古墳の墓道状の前庭部分から出土している。この古墳は他の副葬品の様相や埴輪の樹立の在り方などから6世紀後半から7世紀前半に至るまでの間に複数回の埋葬が考えられ、柄頭はその出土状況から初期の埋葬に伴うものと考えられる。高崎市若田町出土例（図1－3）は環径が5.6×7.2cmで把間には銀線が葛巻されている。環内の竜頭の形状は口から舌あるいは短い雲気を出しており、岩田系列となる。

上記の把頭3口はいずれも金銅製で穴沢・馬目両氏の編年序列の第三・四段階に当てられており、皇子塚古墳の築造年代観との齟齬は生じないものである。

単鳳環頭大刀では伝高崎市倉賀野町正六あるいは岩鼻町出土とされる例（図1－1）が特記すべきものとしてある。この柄頭の残存長は7.8cm、茎の端部を欠損しているが刀身とは合缺の状態で直接接続された様子がうかがえる。環径は4.2×5.2cmとやや小ぶりな造りである。環内の鳳首の口は閉じられ短く、頭頂の冠毛や角の巻き上げの突出も弱いものである。首部は幅広く、環下位には足部が表現されているのであろうか。全体に立体感が乏しく、細部の表現は陰刻で補足されている。環上には毛彫り様の陰刻で植物文様が見られる。この柄頭は古くから知られる奈良県石上神宮禁足地出土例、あるいは大阪府石切剣箭神社蔵のものと同笵とされるものである。本資料は出自が判然とせず、伴出遺物もないことからその製作年代が断定できないが、石切剣箭神社蔵の三角縁神獣鏡をはじめとする鏡類や碧玉製の玉類・石製腕飾類が同一古墳出土のものであるとすればこれらの環頭大刀は4世紀後半の所産とすることができる。

桐生市加茂神社古墳出土例（図1－5）は、環径5.1×6.1cmを測る。口を開き玉を含んでいるもので宇洞ヶ谷系列にあてられると考えられる。首部に鱗状の陰刻が残る。

その他の単鳳環頭大刀は穴沢・馬目両氏分類の第四段階、龍王山系列の範疇に含まれるもので、環径は両氏の指摘するように6.5cm前後である。鳳首は伝勢多郡南橘村出土例（図1－8）、藤岡市平井地区1号墳出土例、吉井町『上毛古墳綜覧』（以下綜と略す）吉井町23号墳出土例（図1－7）、玉村町大塚越古墳出土例のいずれも酷似した意匠である。その中で、玉村町房子塚古墳出土例（図1－6）のみは鳳首の巻毛が後方に直線的に延びる特徴的なもので、穴沢・馬目両氏により乗場亜系列と分類され、全国的にも少数出土例であることが指摘されている。

藤岡市平井地区1号墳出土例は刀装具全体の在り方を知る上での好資料である。詳細は正式報告を待たねばならないが、その全長は80cm、把間は銀線葛巻で、把の筒金具、鞘口金具、鞘間金具はいずれも断面六角形の金銅製である。鞘は呑口式で鞘木全体をC字の鱗状文を施した銀装の板金で覆い、合わせ目は猪の目の透彫りのある金銅製鞘金具で留めている。鞘尻金具には二本の蟹目釘が打ち込まれている。把間の途中に責金具が装着されている点は島根県鷺ノ湯病院址横穴出土例や栃木県天王塚古墳出土例と類似している。

B．双龍・双鳳環頭大刀

出土点数は13口を数えたが環頭部分のみの残存が多く全体を知ることができるものは少ない。この中で伝安中市原市出土の金銅装大刀は全長91.2cmを測るものである。環頭部分は横径6.9cm、

1．高崎市倉賀野町出土
2．伝高崎市倉賀野町出土
3．高崎市若田町出土
4．皇子塚古墳
5．加茂神社古墳
6．房子塚古墳
7．綜吉井町23号墳
（縮沢不同）
8．伝勢郡南橋村出土
9．高崎市倉賀野町出土
10．群馬郡出土
11．二ッ山１号墳
12．大日塚古墳
13．安中市大字嶺出土

図１　単龍・単鳳環頭大刀　双龍・双鳳環頭大刀

0　1：3　15cm

鉄地金被で、環上に蛇腹文が施文されるというが、その識別が困難となっている。環内の鳳首は別鋳で環の一部をかいて嵌め込まれている。柄筒金具には表裏でモチーフの異なる絡首の双龍文が表出されているが、簡略化が進み、下段の足部は省略され渦巻き状を呈している。柄間は3.6cmと短く、銀線を巻いている。刀身は細身の内反りで、全体を金銅製の板金で装飾した鞘に収められていたと考えられ、鞘口金具と、2(あるいは3)箇所に責金具が残存している。全体の様相は朝鮮半島出土の例や国内出土例の古相のものに類似するものの筒金具の文様の簡略化の進行も指摘できる資料である。舶載品あるいはこれを極めてたくみに模倣したものと思われる。高崎市倉賀野町字正六出土例(図1—9)は穴沢咏光・馬目順一両氏あるいは町田章氏によりその希少性が指摘されているもので6世紀前半から中葉の年代観が付与されている。その他は定型化したもので新納泉氏の段階設定に当てはめて考えることができよう。即ち、新田町二ツ山1号古墳出土例(図1—11)はII式に相当し、群馬郡出土のもの(図1—10)もこれに近い時期になるであろうか。前橋市大日塚古墳例(図1—12)、伝藤岡市小林出土例、安中市字嶺出土例(図1—13)は板金を打ち抜いて竜頭を作成するもので、これとは別鋳の環上からは竜文が消失し、側面に刻目が施されている。先の2例をVI式に安中市例は最も新しいVII式になると考えられる。また、伊勢神宮徴古館蔵の柄頭はIVからV式に相当するものと考えられる。

刀装具全体を知ることのできる資料は伝藤岡市小林出土例のみである。この大刀は大型の柄頭に続く筒金具から鞘尻に至るまでのすべてを金銅板で覆うものである。鐔は無窓の喰出し鐔状で、佩用は単脚足金具二足によったと考えれるが、鞘尻には2本の蟹目釘が認められる。

C．三累(繋)環頭大刀

穴沢咏光・馬目順一両氏は朝鮮半島及び全国の出土例を集成、検討、AからDの四群に型式分類し、A群からD群への変遷の序列傾向を示した。今回の調査では両氏が群馬県高崎市上滝・慈眼寺古墳出土とした資料が、群馬大学が高崎市綜滝川村2号墳を調査した際の記録写真中に慈眼寺所蔵品として撮影されており、これが東京国立博物館に高崎市上滝町前山26出土品として多数の遺物が収蔵されている同古墳出土の可能性が高くなったのみでその他の新知見は得られなかった。ここでは穴沢・馬目両氏の従来の成果を再記するに止めておく。これによると上野地域出土例で青銅あるいは金銅製のものが5口がある。高崎市観音山古墳出土例は両氏分類のC式に当たり、鞘口金具にくりこみ(くりかた)の造作が認められるもので、刀身はカマス切先である。綜滝川村2号墳例はCまたはD式になろうか。この2例は出土古墳の内容に即せば6世紀後半の年代が考えられようか。その他、高崎市倉賀野町出土例(図2—1)がB式に、伝群馬県出土例(図2—2)、吉井町出土例(図2—3)がD式と分類されている。群馬県出土例(図2—4)は鉄製で、国内で模倣、製作されたことを示すものであるという。また、全国集成例28口(1985年時点)のうちの金銅製品5例と模倣の鉄製1例が上野地域から出土するという分布の偏在性も特記されるべきことであろう。

1．綜高崎市倉賀野町185号墳
2．伝群馬県内出土
3．多野郡吉井町出土
4．群馬町県内出土
5．佐波郡玉村町下茂木出土
6．藤岡市本郷出土
7．綜大胡町39号墳
8．群馬郡榛名町里見出土
9．伝高崎市若田町出土
10．観音塚古墳出土
11．新田町大根出土
12．高崎市付近出土
13．高崎市若鼻町出土
14．新田町神明出土
15．筑波山古墳
16．伝藤岡市本郷出土
17．伝高崎市付近出土

図2 三累・三葉・獅嚙環境大刀・鶏環頭大刀・円頭大刀(1)

D．三葉環頭大刀

穴沢咏光・馬目順一両氏が全国の出土例30口（1989年時点）を集成し、７群の類型に分類している。上野地域では佐波郡玉村町下茂木出土の一例（図２－５）が知られるのみである。金銅製でと推定され、環の横径7.0cmである。内部の中葉が尖って完全にパルメット化している。穴沢・馬目両氏により６世紀代のものとの見解が示されているが、出土古墳についての手掛かりも無く、今回もその製作年代の幅を狭めることはできなかった。

E．獅嚙環頭大刀

上野地域の出土例は穴沢光・馬目順一両氏により4口が集成されている。両氏は全国出土の24口（1985年時点）をＡからＤの四群に分類し、ＡからＤに向けて退化傾向を示すという見解を提示した。それによると藤岡市本郷出土例（図２－５）は獣面の表現、環上の走竜文、筒金具の断面形状などの諸要素の組成からＡ群に、群馬郡榛名町里見出土例（図２－８）はＤ群とし、残りの2例、勢多郡大胡町綜大胡町39号墳出土例（図２－６）および高崎市若田町出土例（図２－７）はこの中間形態のＣ群に相当するとしている。獣面の表現からは大胡町例が高崎市例よりもやや先行するようであるが細部の年代観を比較できるような伴出遺物は無い。この環頭大刀は最古式の様相を呈する千葉県金鈴塚古墳出土例からＡ群に６世紀後半の年代が付与されているが、綜大胡町39号墳には既に埴輪樹立の慣習は消滅しているようであり、Ｂ・Ｃ群は７世紀初頭から前半を、これより後出のＤ群は７世紀前半の範疇で落ち着くのであろうか。

F．鶏冠頭大刀

高崎市観音塚古墳出土例（図２－10）が上野地域出土の唯一例である。銀製で把頭には透かしが入っている。この柄頭は横刀とされる短い刀身を伴い、鞘口には透彫りの施された佩用金具が装着されている。同種の大刀の出土例は全国的にみても少数で、広島県土肥谷古墳や千葉県金鈴塚古墳出土例は把頭に透かしを伴わないものであるが、全体が銀装であることや柄間に銀線を葛巻している点は共通している。金鈴塚古墳例には単脚の足金具二足が装着されている。観音塚古墳や金鈴塚古墳の出土その他の装飾付大刀や古墳自体の年代観からこの大刀の製作年代は6世紀後半と考えられる。

G．円頭大刀

鉄装で銀象嵌の文様を施すものと金銅装を主とする金属板により装飾されたものに大別される。鉄装銀象嵌のものは８口の柄頭の出土が知られるが、橋本博文氏により亀甲繋文内の象嵌文様構成の変遷が検討され、６世紀の初頭から７世紀前半の間に８段階の段階設定がなされている。この成果によると亀甲繋文内の意匠は鳳凰文と花文の二系統の変遷がみられ、鳳凰文は単鳳、双鳳、それらがハート形文へと変化し、さらに火焔文あるいは施毛文へと系統的に移行するという。当該地域出土例では橋本氏第4段階に板倉町筑波山古墳出土例（図２－15）と藤岡市本郷例（図２－16）が、第５段階に伝高崎市付近出土例（図２－17）と高崎市岩鼻町出土例が当てられており、それぞれ６世紀後半・６世紀末の年代観が付与されている。高崎市原口II遺跡２号古墳からは、

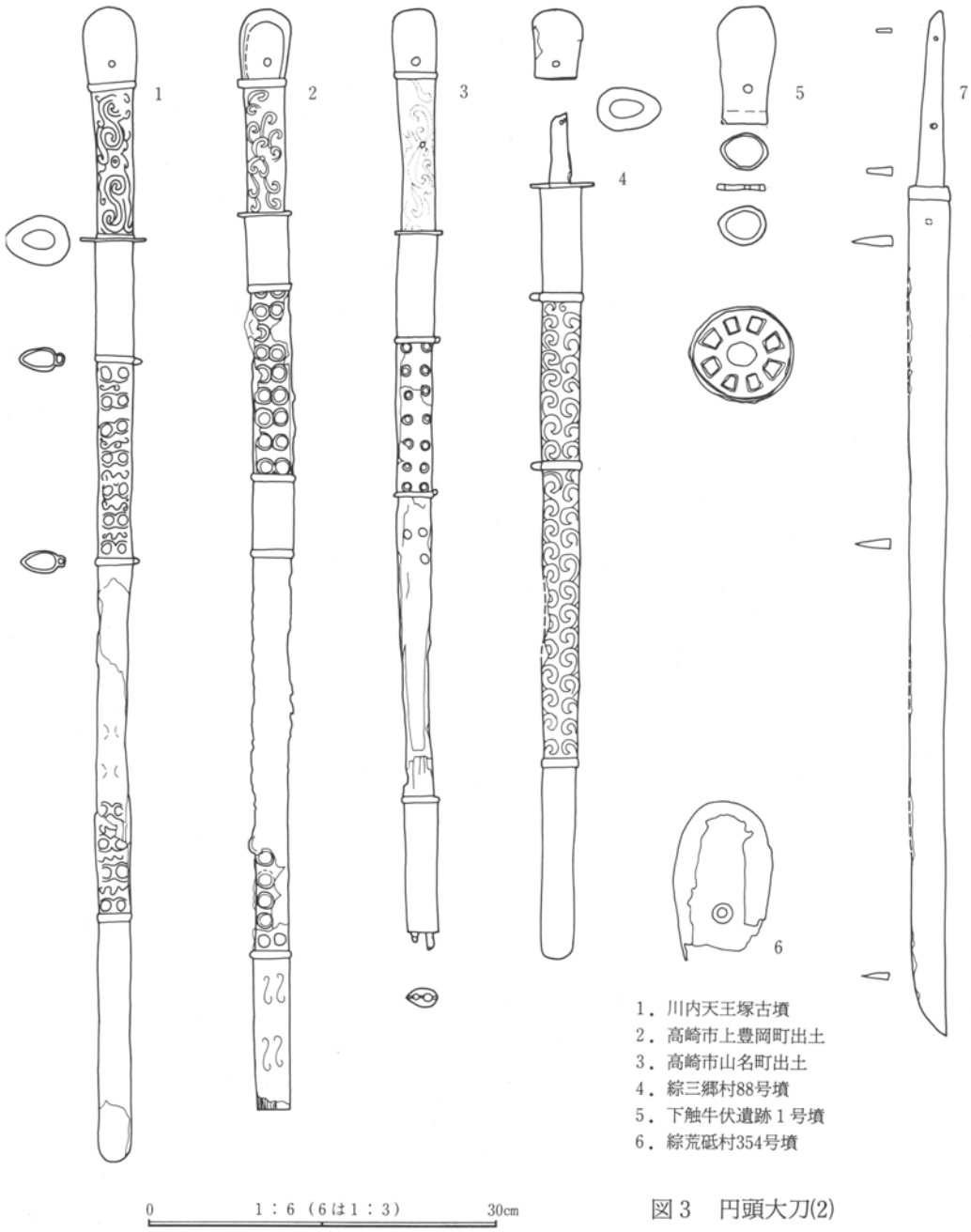


図３　円頭大刀(2)

短小の柄頭（あるいは鞘尻金具か）が出土し、羽状文と鱗状文を重ね合わせたような象嵌文様が構成されている。７世紀前半の事例と考えられる。

鉄装の円頭大刀で全体の様相を把握することが可能なものは全くなかったが、近年の調査で発見された藤岡市平井地区１号墳出土例はその好例となるもので、亀甲繋文象嵌の柄頭で柄間には銀線が葛巻が施されている。喰出鐔や鞘尻の蟹目釘が存在していたと考えられる点、佩用に足金

具が採用されていない点など円頭大刀の刀装具全体の中でも古相を示すものである。このほかに鉄製象嵌品として鐔あるいは鎺に渦巻き文あるいはC字状文をはじめとした象嵌のほどこされた例が多数存在し、今回は14例を集成した。また、高崎市観音山古墳例や板倉町筑波山古墳出土例のように刀身の鎺本孔の周囲に象嵌を施す例が4例報告されている。[注2]

一方、金銅装のものは瀧瀬芳之氏により集成・分類がなされており、上野地域では5口が資料化されていたが今回の調査では新たな資料をそのリストに追加することはできなかった。図3—1から4はいずれも柄間、あるいは鞘木全体を金銅板で覆うものである。柄間の蕨手文状の打ち込み文様や鞘飾り板にみられる上下2列の円文打ち出しのモチーフには強い共通性をもつもののその反面、柄間の製作方法、鐔の形状、佩用方法、鞘尻の形状などには個別の特徴が看取でき、系統だった段階設定にまでには及ばず、これらが極めて短期間の間に製作・流布したものである可能性が高いことだけが指摘できる。

H．圭頭大刀

この大刀も瀧瀬氏により鐔・柄間の形状、佩用金具の状態などに視点をあてた分類・編年がなされている。今回の調査で27口を確認した。刀装具全体を知ることのできる新資料の追加はできなかったが、把頭部分のみに限定すれば、既知例の再確認とともに新たに数例の形状を把握することができた。

そのうちの1例目は業平塚古墳出土例（図5—7）で、柄頭の外縁に覆輪状の金銅製の金具を巡らせ、柄間と重なる部分を金具で絞めている。無窓鐔、柄間の板金、丸尻の鞘尻金具を伴っている。同様の例は伝群馬郡箕郷町出土例（図4—1）や奥原古墳群15号古墳出土例（図4—5）などがあるが装具細部の状況に相違がみられる。

2例目は長久保古墳群15号墳出土例（図5—6）である。第1例目同様、覆輪状の金具を巡らすが、懸通穴の周囲を透かし細工のある鋲留めの飾板で装飾するもので、藤岡市付近出土例（図4—3）や大日塚古墳出土例（図5—5）に類似する。

3例目の伝勢多郡南橘村出土例（図5—12）は金銅製で板金を袋状に合わせたものである。類例に伝群馬県出土例（図4—6）、群馬郡佐野村出土例（図5—11）などがある。

高崎市観音塚古墳出土例（図5—1•2）と藤岡市萩原塚古墳出土例は瀧瀬氏がN類と分類したものである。銀装で後の方頭大刀につながる形状を指摘されている。千葉県金鈴塚古墳や埼玉県小見真観寺古墳出土例などと比較すると佩用金具に多少の相違がみられるものの柄頭の形状や柄間に銀線を葛巻する点、銀装という材質などに強い共通性を有し、製作年代も6世紀後半から終末の極めて短い期間と思われ、その分布についての検討と背景の追及が必要となろう。

以上のように柄頭の形状には多くのバリエーションがあり、柄間の状況、鐔の形状、佩用方法などに視点を置き、双竜・双鳳環頭大刀、円頭大刀などその他の大刀の変遷と合わせて考える必要がある。

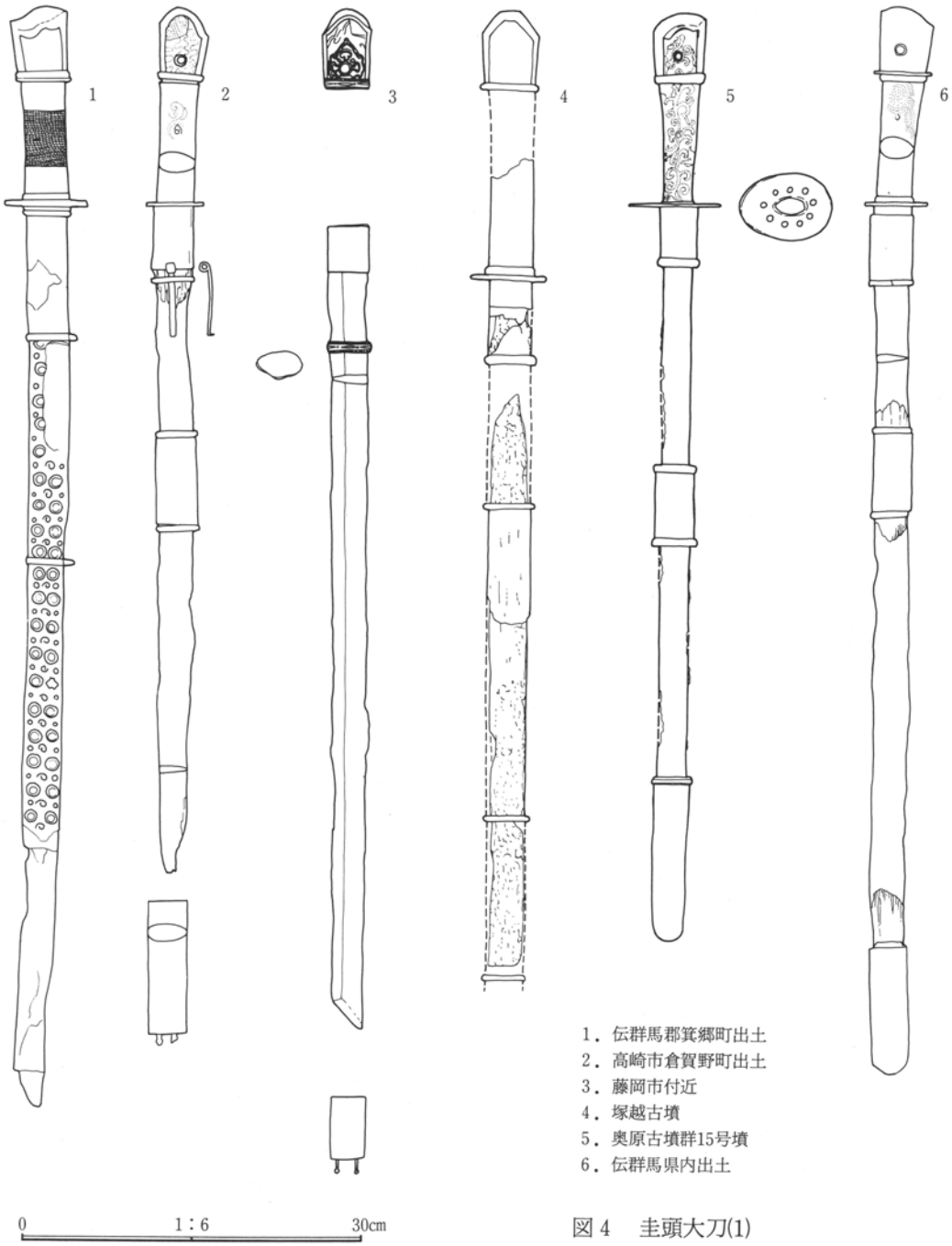


図4　圭頭大刀(1)

Ⅰ．頭椎大刀

頭椎大刀の研究は古くからの成果の蓄積があるが、後藤守一氏の柄頭の形態分類が踏襲され、竪畦目式、横畦目式、無畦目式と分類されている。これら系統的な変遷をたどるものとは別に観音山古墳や栃木県別処山古墳出土のようなやや異形の柄頭を有する金銀装大刀については、その

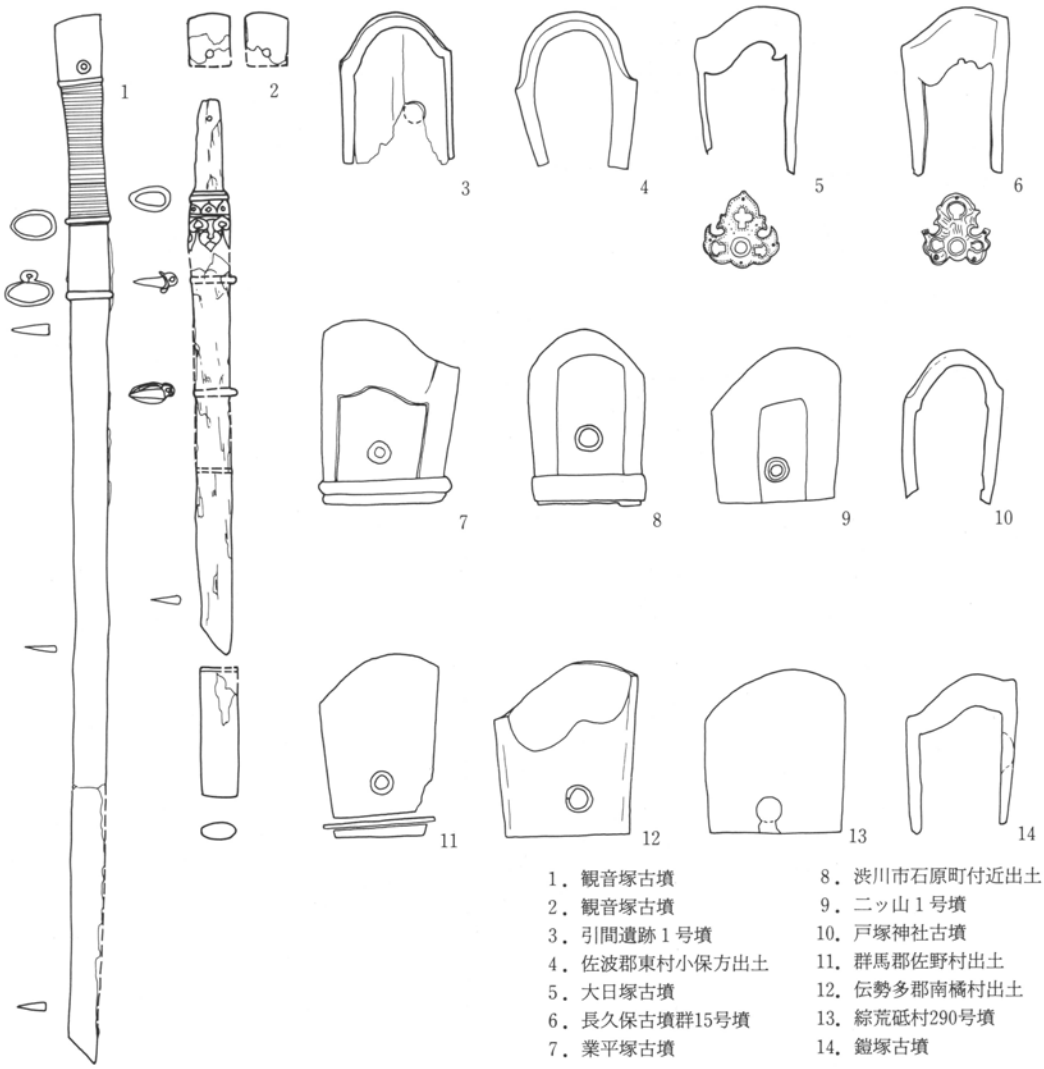
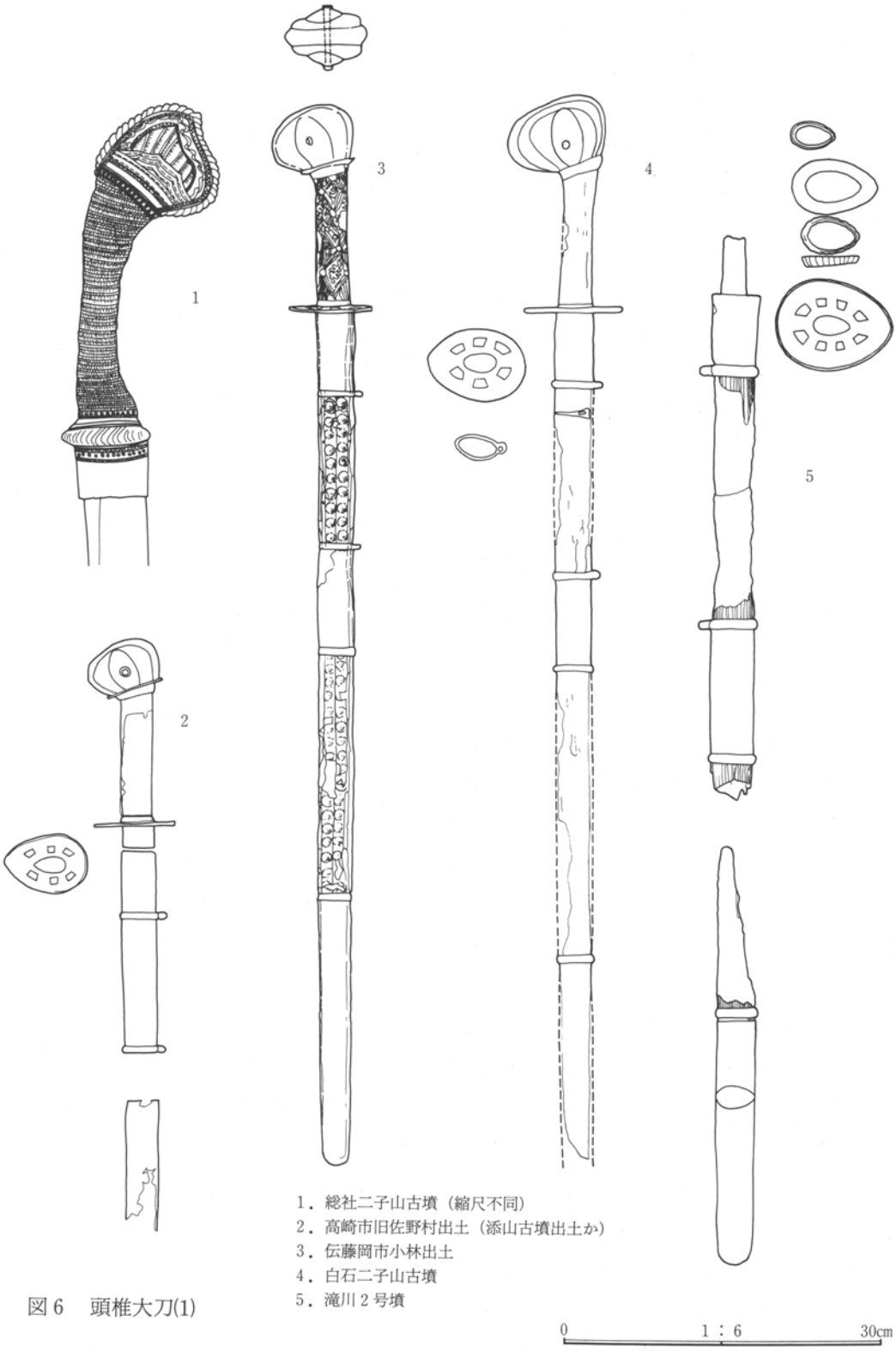


図５　圭頭大刀(2)

系譜を中国大陸や朝鮮半島に求め検討していこうという方向にある。

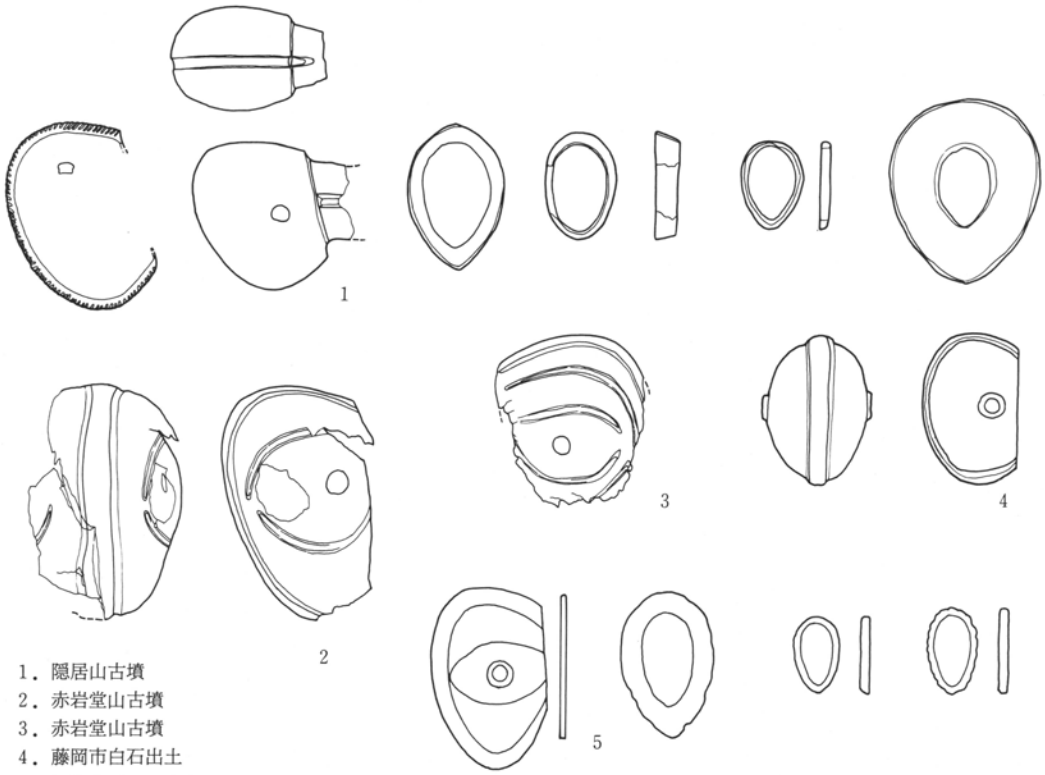
高崎市観音山古墳出土の金銀装大刀は花冠頭大刀と呼称されて来たものである。喰出鐔状の小径の鐔の形状、足金具を要しない佩用方法などは畦目式の頭椎大刀よりも時期的に古く位置づけられ、共伴する須恵器の年代観からは６世紀後半もやや古い時期が考えられる。これと類似した金銀装大刀が前橋市総社二子山古墳の前方部に構築された横穴式石室から出土した記録がある。（図６－１）同古墳の築造年代は後円部の横穴式石室の様相などから観音山古墳に併行する時期が考えられている。

新納泉氏は畦目式の頭椎大刀の変遷を基本的に無畦目式、竪畦目式、横畦目式の順に一系列で変化するものと考え、６世紀後半から７世紀初頭にいたる間に5型式の時期を設定した。そして、木製柄頭に銀製の筋金を廻した高崎市隠居山古墳出土例（図７－１）を、頭椎大刀の最古型式と



1．総社二子山古墳（縮尺不同）
2．高崎市旧佐野村出土（添山古墳出土か）
3．伝藤岡市小林出土
4．白石二子山古墳
5．滝川２号墳

図６　頭椎大刀(1)



1．隠居山古墳
2．赤岩堂山古墳
3．赤岩堂山古墳
4．藤岡市白石出土
5．桐生市三ッ塚出土

図７　頭椎大刀(2)　　0　1：3　15cm

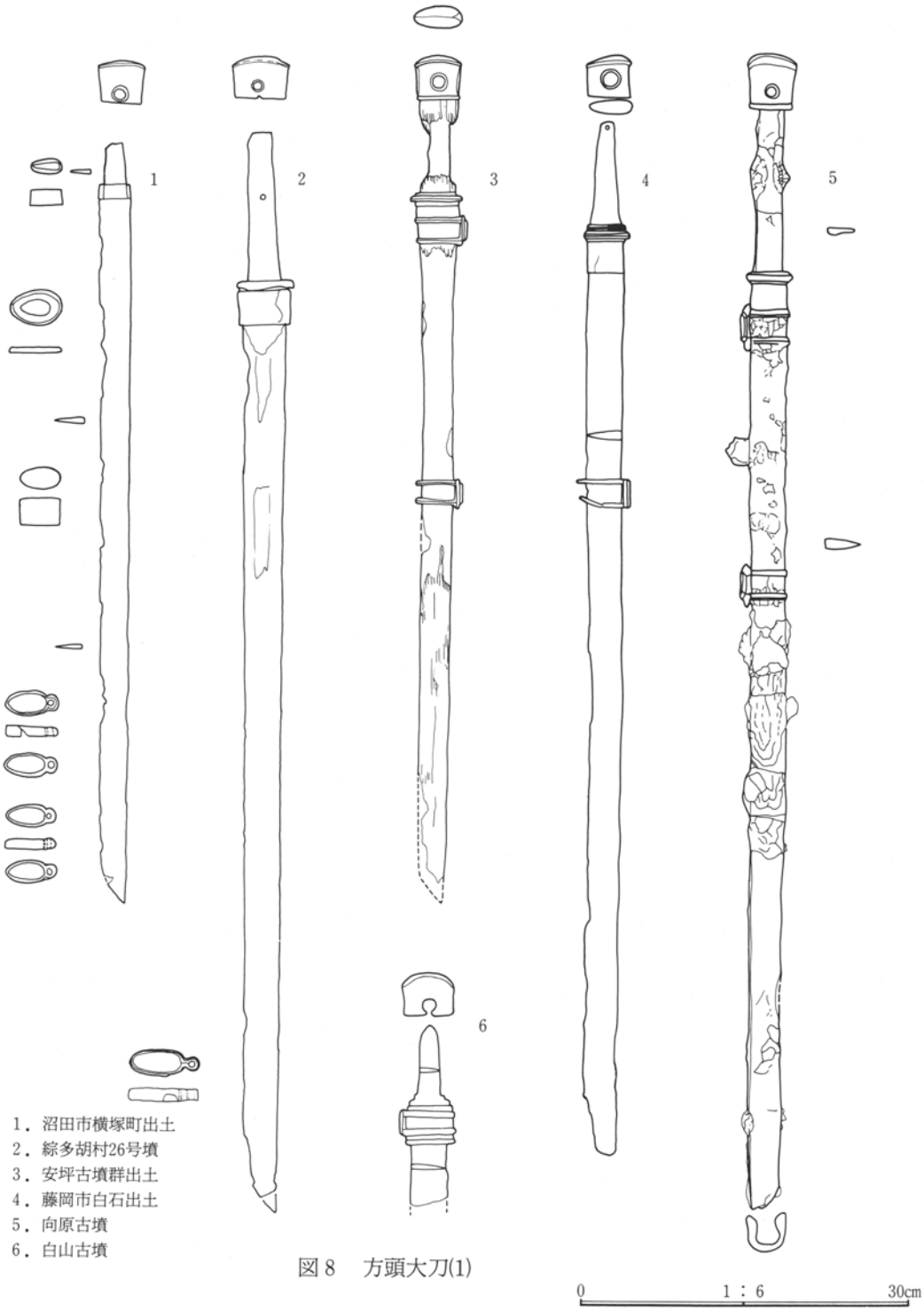
して位置付けている。この柄頭には無窓の鐔、丸尻の鞘尻金具がともなう。

上野地域出土の頭椎大刀で竪畦目式のものは極めて少数で藤岡市白石出土例（図７－４）が確実な例で、新納氏のII式に相当する。これに対し新納氏のIV・V式にあたる横畦目式の資料は著しく増加する。畦目数の多い例では藤岡市白石二子山古墳例（図６－４）や碓氷郡出土例がある。畦目の少ないものでは高崎市旧佐野村出土例（図６－２）や伝藤岡市小林出土例（図６－３）がある。刀装具全体をみるといずれも金銅装で鞘の飾板には共通性の強いモチーフが採用されている。佩用には単脚足金具二足が装着されている。

無畦目式の例としては高崎市綜滝川村２号墳出土例(図６－５)、 高崎市綜高崎市233号墳出土例、富士見村初室古墳出土例がある。綜滝川村２号墳出土例は銀製の柄頭でこれに８窓の大型鐔をはじめとした金銅製刀装具が伴ったものと考えられ、柄間には銀線が葛巻が推定される。この大刀と金銅製柄頭の綜高崎市223号墳は伴出の遺物の様相から６世紀後半の年代を想定できるが、初室古墳は埴輪の出土も無く、７世紀前半の築造が考えられ、この型式の製作年代にはある程度の時間幅があるようで畦目式と無畦目式を別系統としその変遷過程を追及した穴沢咏光・馬目順一両氏や桜井達彦氏の視点も重視したいと考える。

Ｊ．方頭大刀

瀧瀬芳之氏はこの大刀の柄頭の形状を分銅形あるいは鋲頭形をした変形柄頭と方形柄頭の二つ



1．沼田市横塚町出土
2．綜多胡村26号墳
3．安坪古墳群出土
4．藤岡市白石出土
5．向原古墳
6．白山古墳

図８　方頭大刀(1)

に大別し、これと佩用金具の形状の変化に着目した変遷過程を提示している。その序列は変形柄頭・単脚足金具二足佩用を第一に、変形柄頭・張出双脚足金具二足佩用、変形柄頭・台形双脚足金具二足佩用、方形柄頭・台形双脚足金具二足佩用となっている。柄頭の分類と佩用金具の変遷がうまく合致しており、この大刀の延長線上に正倉院蔵の大刀群が存在することを考えれば、全体の変遷過程としてはこの見解に納得できるものである。

上野地域では変形柄頭例７口、方形柄頭例４口が確認できた。特に今回の調査では複数の変形柄頭例を観察する事ができた。前橋市向原古墳出土例（図８－５）は刀装全体を知ることのできる好資料である。佩用は張出双脚二足佩用で、鞘尻にはえぐりの入った金具が装着されている。吉井町安坪古墳群出土例（図８－３）も同様の形状であるが刀身は短い。

方頭大刀における装具の材質は銅製が主体であるが、沼田市横塚町出土例（図８－１）は銅製の変形柄頭、喰出し鐔に鉄製の単脚足金具二足が伴うものである。また、吉井町綜多胡村26号墳出土例（図８－２）は変形柄頭をもつ鉄装の大刀で、単脚足金具が一つ残されている。類例には栃木県助戸新山古墳出土例があるが材質に相違点がある。鉄装例としては双脚足金具二足をもつ例が赤堀町綜赤堀村199号墳から出土している。この二例は先記の瀧瀬氏の変遷序列からすれば方頭大刀のなかでは古相に位置付けられるべきものであるが、出土古墳の様相や共伴遺物の組成が不明な中で、いずれもその装具の材質が鉄製であるという部分で今後に検討課題を残すものである。

また、方頭大刀の製作年代について、変形柄頭を有する大刀は埼玉県八幡古墳や西原古墳出土例から７世紀中葉と考えられ、これより後出する方形柄頭をもつ大刀は7世紀後半以降の年代が付与されることになる。その意味では白山古墳出土例（図８－６）は変形柄頭のものの中では後出的要素を備えてはいるものの７世紀後半の年代が与えられそうで、共伴する和銅開珎の製造年とは大きな年代差が生じるようである。

藤岡市白石付近出土例（図９－５）は柄頭を欠くものであるが、銅製の刀装具を備えている。足金具は吊手の環状金具を鞘と直交する方向に設けるもので本地域では希少例である。

吉井町城古墳出土の立鼓柄共鉄造とされる大刀（図10－７）は刀身の短い点で蕨手刀に通ずる形状を有しているが、柄頭の形状、その他の刀装具の在り方は藤岡市白石出土の方頭大刀（図９－４）と共通するものである。

K．蕨 手 刀

13例の出土が確認されている。その内、北群馬郡吉岡町出土例は柄間に毛抜様透のあるもので年代的にも９から10世紀にまで下るものとされている。形状を検討できるものは高崎市岩鼻町市ヶ原出土、北群馬郡吉岡村出土、碓氷郡出土例を除く９例で、このうち、伊勢崎市上原古墳例（図10－４）と勢多郡北橘村綜北橘村110号墳出土例（図10－６）は石井昌国氏分類によるところのIII型で鋒両刃造のものである。共に銅製の装具を伴っている。そのほかの出土例は石井分類のII型であるが柄先の形状、刀身の長さ、幅などに相違が認められる。その中で佩用の足金具に形

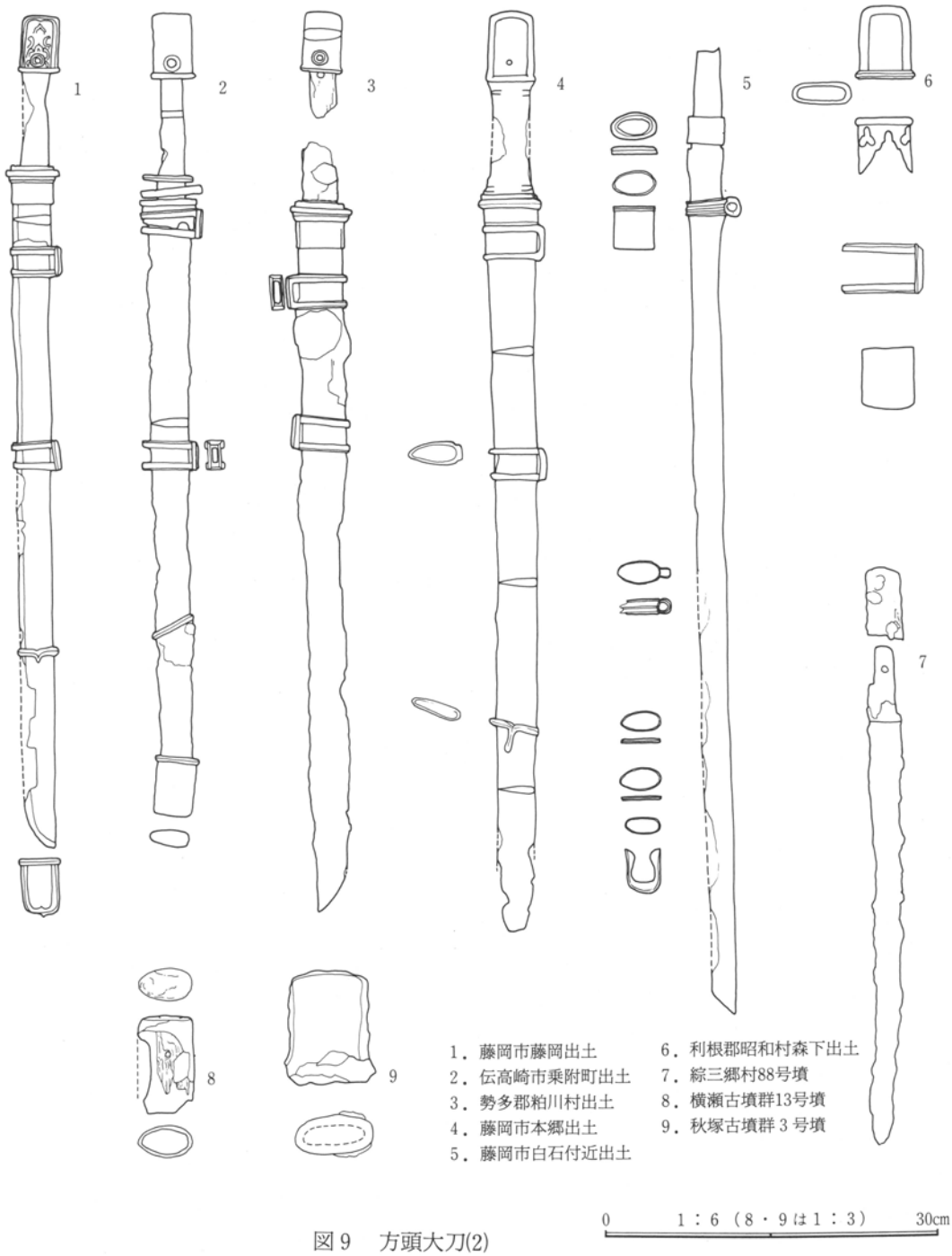
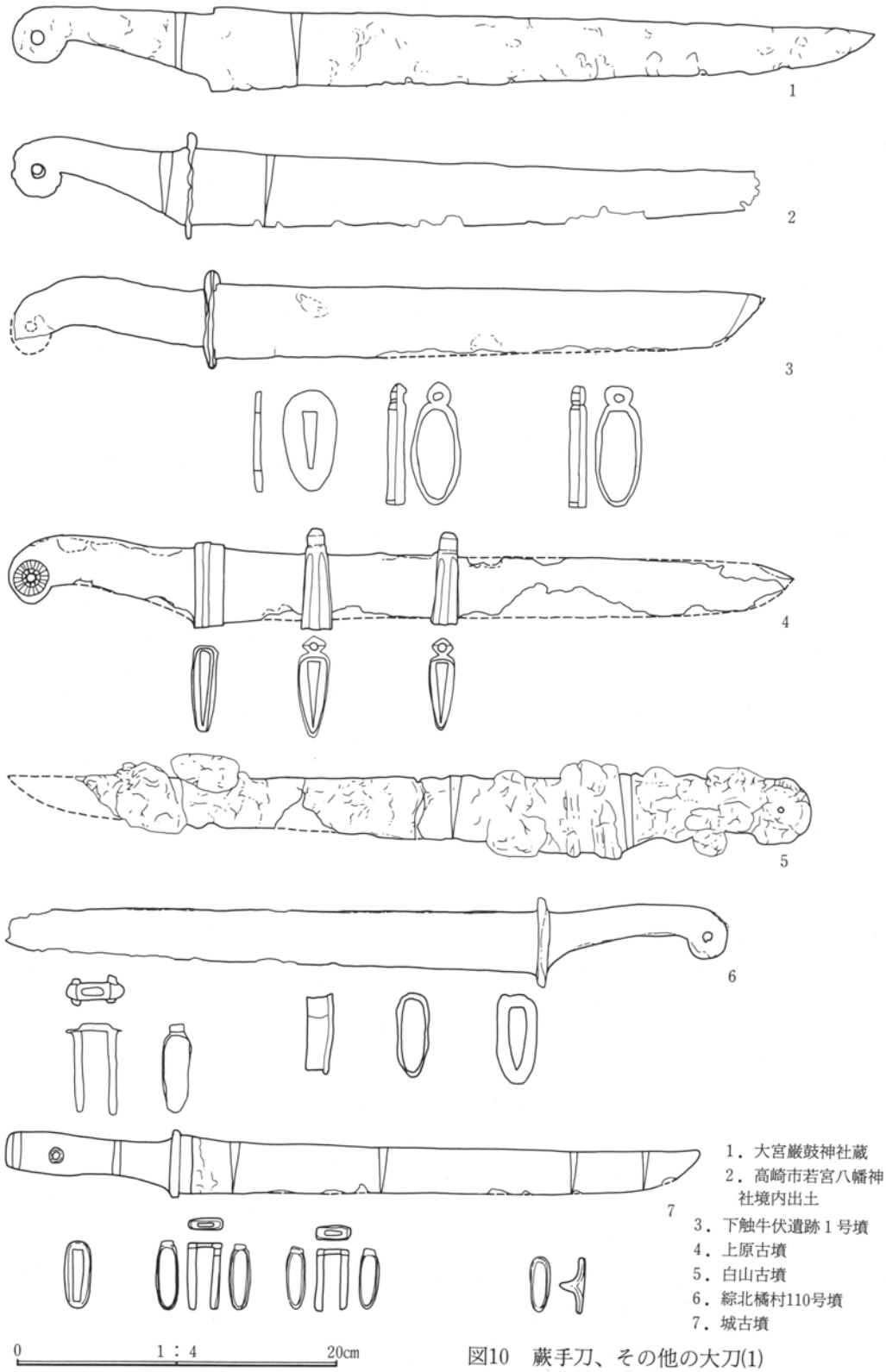


図９　方頭大刀(2)

式差がみられる。上原古墳出土例、下触牛伏遺跡１号墳出土例(図10－３)、新田町出土例は単脚足金具二足によるものである。これに対し、白山古墳出土例（図10－５）・綜北橘村110号墳出土のものは張出の双脚足金具が一つ残存しており、この金具二足により佩用したものと考えられる。これらの年代については佩用金具の形状に他の装飾付大刀の変遷を参考にすることができるので



1．大宮厳鼓神社蔵
2．高崎市若宮八幡神社境内出土
3．下触牛伏遺跡１号墳
4．上原古墳
5．白山古墳
6．綜北橋村110号墳
7．城古墳

図10　蕨手刀、その他の大刀(1)

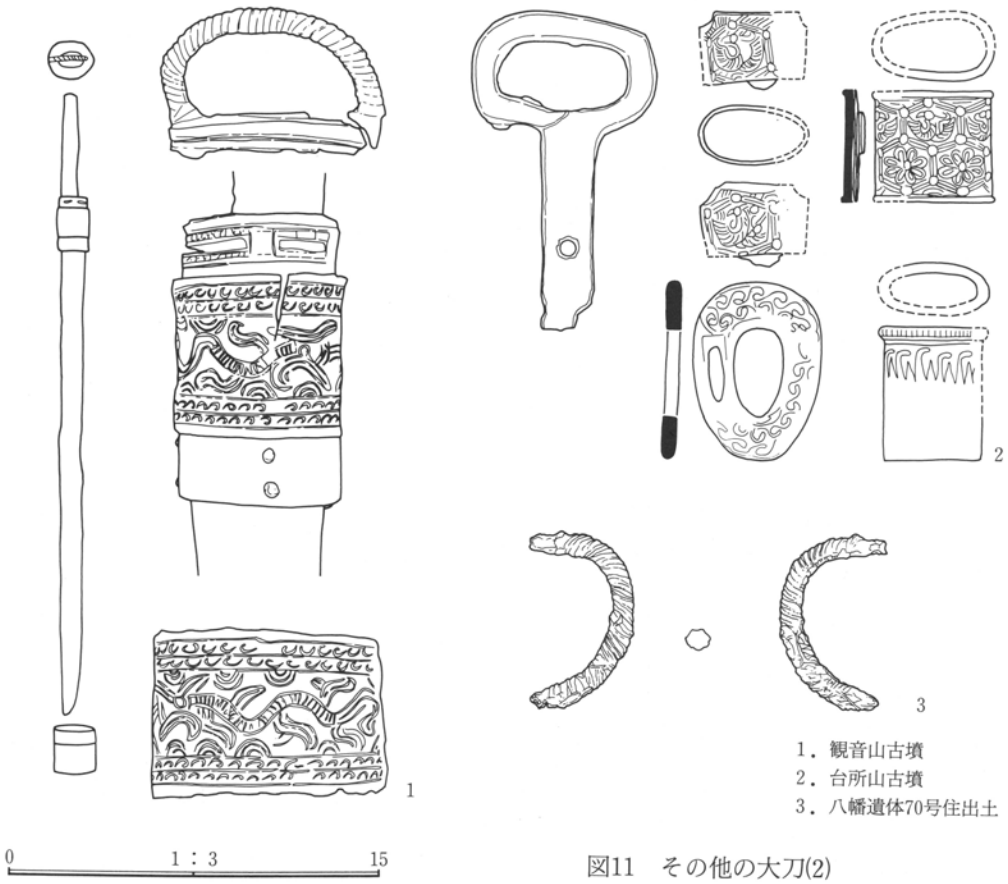


図11　その他の大刀(2)

あれば7世紀の中葉から後半にかけてと考えられるが上原古墳出土の青銅製の銙帯の共伴事例もあり更に細かな検討を要するものである。

L．その他の大刀

太田市鶴山古墳、富岡市御三社古墳、安中市綜後閑村3号墳、藤岡市白石二子山古墳からは金銅製の三輪玉が複数個体出土している。綜後閑3号墳出土例が鋳造製であるほかは打ち出しによるものである。これらは、栃木県七廻鏡塚古墳出土の木装大刀と同様、勾金を備えたを装飾付大刀に伴っていたと考えられる。また、赤堀町綜漏峯岸山17号墳出土例に代表されるよう金銅製の三輪玉と同様の役割をした水晶製の三輪玉の出土もある。これらの大刀は出土古墳の年代に5世紀後半から6世紀後半にいたる時間幅が認められる。

高崎市観音山古墳からは奈良県藤ノ木古墳出土例と同様の捩環頭大刀が出土している。観音山古墳例（図11－1）の場合は藤ノ木古墳のような柄部分に勾金を伴うか否かの断定はできないが、鞘口金具と大径で平底の鞘尻金具の側面には銀象嵌による装飾がほどこされている。この大刀は所謂倭様の大刀として5世紀後半には確立していたと考えられる在来の刀装に金銅装大刀の意匠が影響し、折衷的な装飾が施されたものと思われる。この大刀の柄頭と同様のC字型の金具は邑

楽郡大泉町古海原前１号墳と高崎市八幡町八幡遺跡70号住居(図11―３)、観音山古墳に近接する高崎市綿貫町字塚合からも出土しており古墳出土の遺物と考えられる。

M．その他装飾付大刀に係わる刀装具

これまで記してきた装飾付大刀のほかに柄頭が欠損したり、部分的な残存であるために、形式の断定できない刀装具が多数ある。以下、主要なものについて述べてみたい。

環頭大刀の断片と考えられるものに、新田町兵庫塚古墳出土の柄間の銀線とそれに付随する縁金具がある。太田市四ツ塚甲墳と藤岡市白石二子山古墳からは猪目の透彫りの施された鞘の飾金具が出土している。

前方後円墳では前橋市山王金冠塚古墳から金銅装大刀の鞘尻金具が出土、蟹目釘が残存している。高崎市五霊神社古墳、長山古墳、北群馬郡榛東村長久保古墳群31号墳、佐波郡東村雷電神社古墳趾、境町上淵名雙児山古墳から金銅製刀装具が出土あるいは出土の記録がある。

中小円墳例では、伊勢崎市清音１号墳、佐波郡赤堀町綜赤堀村248号墳から金銅装の鞘部分が出土している。共に鞘飾り板には二列の円文打ち出しが施されており、単脚足金具二足佩用で、綜赤堀村248号墳の鞘尻には蟹目釘が認められる。榛東村長久保古墳群27号墳からは銀製の鎺、単脚足金具を装着した大刀が出土している。足金具は帯執りの環が佩裏側によって位置する古い様相のものである。高崎市三本山古墳では金銅製の単脚足金具と銅鋺が共伴している。

4　上野地域における装飾付大刀と出土古墳

上野地域における各種大刀の変遷を概観すると６世紀後半から７世紀の前半の時期、この金銅製大刀が盛行する時期を挟んだ前後の三時期に大別できると考えられる。ここでは各時期の装飾付大刀の様相と出土古墳の関係について記してみたい。

１段階（６世紀前半以前）

この段階の上野地域においては、５世紀後半に開始された小型円墳からなる群集墳の形成が一段と広範囲の地域で認められるようになるとともに、６世紀初頭に前方後円墳に導入された横穴式石室が中小規模の円墳の埋葬施設として定着して行く時期にあたる。

この段階に認められる装飾付大刀は、柄頭に金銅製あるいは水晶製三輪玉を装着する勾金を備えたいわゆる玉纏大刀である。太田市鶴山古墳例の存在から遅くとも５世紀後半段階の上野地域には搬入されている。また、大泉町原前１号古墳で銀製捩環頭大刀の金具が検出されており、この大刀も６世紀の前半には地域の首長層に佩用されている。この二つのあるいは二つが組み合わせられた倭様の大刀は、６世紀初頭安中市簗瀬二子塚古墳、６世紀前半から中葉に位置付けられる富岡市御三社古墳、６世紀後半の高崎市観音山古墳、藤岡市白石二子山古墳と６世紀全般を通じて各地域の首長墓に副葬されている。また、６世紀前半から中葉にいたる間にその一部は安中市綜後閑村３号墳や赤堀町綜漏峯岸山17号古墳などもう一段階下位の小地域の有力者層の手元にも達している。木装大刀にかわる金銅装大刀は、この段階の首長層にとって金銅製の馬具ととも

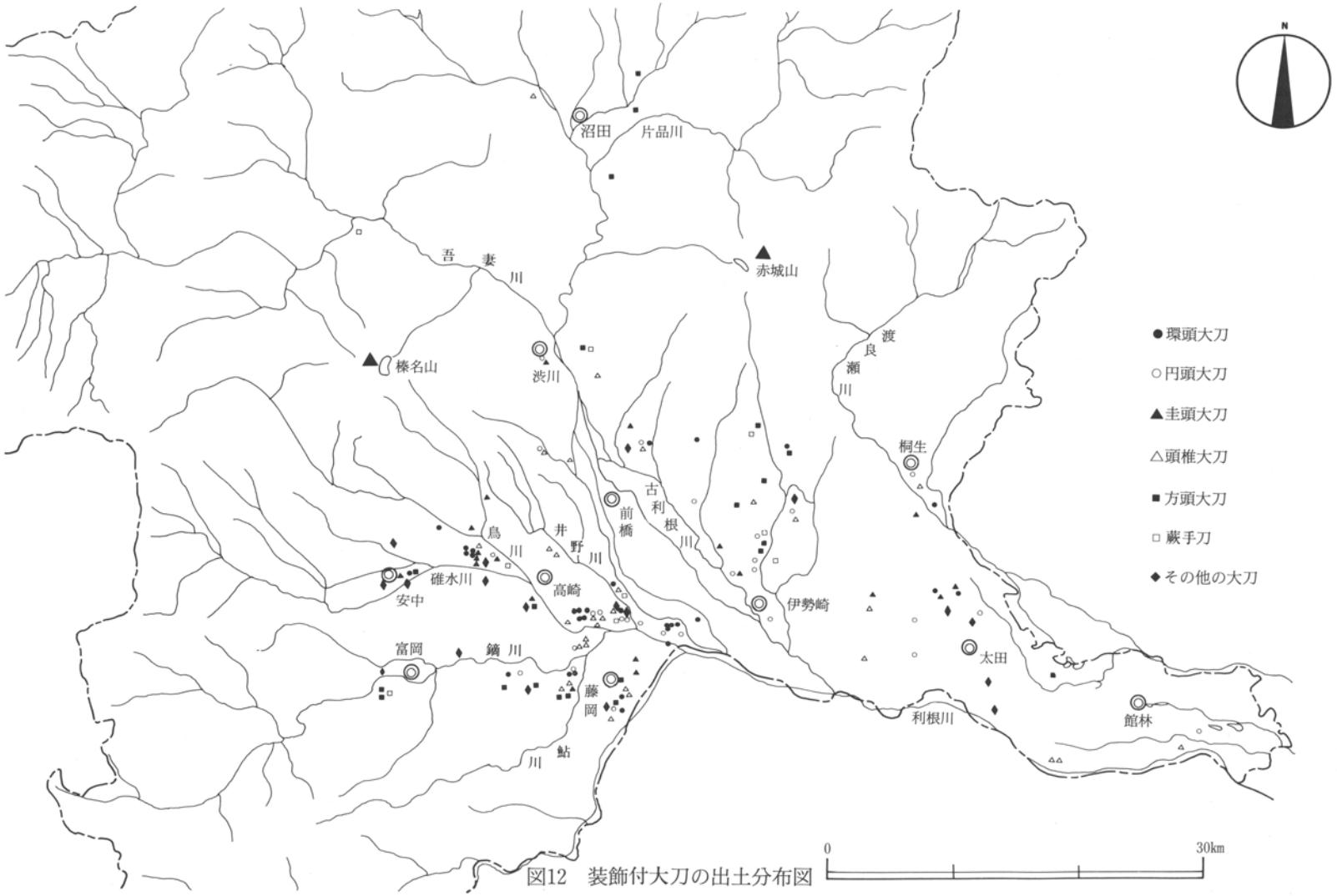


図12　装飾付大刀の出土分布図

に甲冑にかわる威信財のひとつとなったのであろう。

その他、この段階に舶載製品やこれを忠実に模倣した大刀が少数例入っているがいまだ点としての分布でしかない。高崎市倉賀野町出土の単鳳環頭大刀や伝安中市原市市出土の金銅装双鳳環頭大刀、伊勢崎市台所山古墳市出土の象嵌を施した刀装具を伴う素環頭大刀（図11－1）などがそれにあたる。

ところで、玉纏大刀は現状での残存状況からはその後の装飾付大刀のように多量に製作されたとは考え難いものである。その一方で、葬送儀礼にかかわる埴輪樹立に際しては6世紀後半にいたっても、なお、大刀形埴輪の原型としてこれらの大刀が採用されていることを考え合わせると、6世紀後半における玉纏大刀の古墳出土例は、当初から古墳に副葬することを前提に製作された明器的な性格をもっていた大刀とは考えられないであろうか。[注3]

2段階（6世紀後半から7世紀前半）

上野地域における6世紀後半の前方後円墳の様相については、右島和夫氏が簡潔かつ的をえた指摘をおこなっている。それによると利根・吾妻郡域を除き、当該地域では70から100mクラスの前方後円墳が古代の郡域を更に細分したような小範囲を単位として割拠して築造されているという。また、これらの古墳の副葬品には金銀、金銅を多用し、装飾的効果を意図した装身具、武器・武具、馬具、容器が多数認められるとしている。[注4] この指摘は今回の調査で、出土地名表の掲げられた前方後円墳の大半から金銅製刀装具が出土していることからも裏打ちされることとなっている。

このような金銀、金銅製品の大量副葬の先駆けとなったのは、6世紀後半のやや古い時期に築造された観音山古墳、前橋市総社二子山古墳で、両古墳からは拵えに強い共通性をもつ古相の頭椎大刀が出土している。その直後には定型化した単竜・単鳳環頭大刀の一群が認められるが、穴沢咏光・馬目順一両氏の指摘どおり当該地域においても、竜王山系列のものが大半である。これにやや遅れて、金銅装の頭椎大刀、圭頭大刀、円頭大刀の出土も顕著となり、この段階に金銅装大刀が最も盛行している。

図12や表1からは幾つかの小地域では[注5]装飾付大刀が集中して出土していることも判明した。群馬郡域の佐野・倉賀野域、綿貫地域、緑野郡域の白石地域・本郷地域、片岡郡域の八幡地域、那波郡域の玉村地域などがあげられる。

具体例をあげると、緑野郡域（現在の藤岡市、吉井町の東部を中心とする）では、藤岡市西部の鮎川左岸、白石地域と、東部、神流川左岸の本郷地域およびその下流の戸塚地域に装飾付大刀の分布が集中する。

白石地域では5世紀前半に白石稲荷山古墳が成立し、それに続く5世紀後半から6世紀には七輿山古墳などの大型前方後円墳をはじめ複数の前方後円墳が築造された地域である。装飾付大刀の出土状況をみると、上野地域としては中程度の規模を有する全長57mの前方後円墳である白石二子山古墳から頭椎大刀をはじめとした4本の装飾付大刀が出土している。それに近接した全長

46mの前方後円墳、萩原塚古墳からは古相の銀装圭頭大刀が出土している。また、これら両古墳から北2km、鮎川と鏑川の合流点を臨む段丘上には皇子塚古墳と平井地区1号墳のともに径30mを前後する規模の円墳がある。横穴式石室の石材に凝灰岩の截石を使用する点、埴輪樹立が認められる点などに共通性がある。共に単竜・単鳳環頭大刀を出土しており、平井地区1号墳からは鉄地銀象嵌の円頭大刀も出土している。これら4基の古墳出土の大刀は、各種大刀の概要の項でも記したように、各々の型式からは6世紀後半の年代観が導き出されており、ほぼ平行した時期に、階層の異なる複数の装飾付大刀佩用者が存在していたものと考えられる。そして、これらの装飾付大刀が従来の研究成果のように大和王権やその周辺勢力から賜与されたものとするものであれば、このような状況は首長層個人と大和王権という関係でなく、小地域全体と王権の強い関連性を考えさせるものである。

3段階（7世紀の中葉以降）

この段階になると金銅装大刀の出土例は皆無に近くなり、これに代わり方頭大刀や蕨手刀といった一部に銅装や鉄装の刀装具を備えた、質素で実用に近い大刀がみられる。表1、図12でこれらの大刀の分布状況をみると、この時期の主要古墳である截石切組積の石室構築技法をもつ横穴式石室の大半が早くから開口し、副葬品の残存が皆無に近いという制約条件のもとのなかにあっても、環頭大刀や頭椎大刀にみられたような一小地域に出土数が集中する傾向は無くなり、各郡域に均質的な状況が認められるのである。この段階の大刀は2段階の装飾付大刀の分布を継承しながらもその分布域を大きく拡大している。具体的には利根郡域では、それまで月夜野町塚原古墳群に頭椎大刀柄頭1口のみの分布であったが、方頭大刀は沼田市秋塚町、横塚町、昭和村森下の三地点から出土している。また、詳細な出土地は不明であるがこの地域から蕨手刀の出土もあるようである。吾妻郡域にも蕨手刀が存在している。勢多郡域ではそれまで装飾付大刀の出土の見られなかった北橘地域に方頭大刀と蕨手大刀が各1点ずつ分布している。また、赤城山南麓の標高320mの地点に方頭大刀と蕨手刀を副葬した宮城村白山古墳が築造されている。

以上のように、分布の点からみると今回設定した装飾付大刀の変遷にかかわる3段階のなかで、2段階と3段階の間には大きな画期が存在しているととらえることができる。

方頭大刀や蕨手刀の分布の拡散には、6世紀以降継続していたであろう農耕地の開発が、7世紀の段階で更にその拡大の度合いを強め各地域に進行し、有力者層が台頭してきたことを意味していると考えられる。この時期の古墳築造の状況をみると、7世紀の中葉以降に群集墳の築造が再度活発化している。利根・吾妻郡域に築造された群集墳の大多数がこの段階の築造と考えられる。また、それまで群形成が継続していた平野部の古墳群中にあっても、占地状態が極限に達するまで古墳の築造が行われている。あるいは前橋市荒砥二之堰古墳群のようにこの時期になって新たに群の形成を開始する古墳群もある。これらの古墳ではそれまでの葬送儀礼において重要な役割を果たしていた埴輪の樹立は無くなり、新たに前庭という儀礼執行の場所が確立している。

このように装飾付大刀の変貌と群集墳における定型化した前庭の確立にみられる葬送儀礼の変

化はほぼその機を一にしており、その背景には大和王権による中央集権的支配体制の地方への浸透政策が働いたものと理解したい。

5 おわりに

上野地域における装飾付大刀の集成結果については附表に記載したとおりある。柄頭の形状などが確認でき種別の可能であったものは、単竜・単鳳環頭大刀14口、双竜・双鳳環頭大刀13口、三累（繋）環頭大刀６口、三葉環頭大刀１口、獅嚙環頭大刀４口、鶏冠頭大刀１口で環頭大刀の

表１　旧郡域別装飾付大刀出土一覧

旧郡地	小地域	単竜鳳	双龍鳳	三累	三葉	獅嚙	鶏頭冠	円頭	圭頭	頭椎	方頭	蕨手	その他	刀装その他具	小計	合計
利根										1	3	1		3		8
吾妻												1		2		3
勢多	粕川・宮城		1								3	1		6	11	
	荒砥							1	1	1	1			1	5	
	大胡					1									1	
	芳賀		1					1	1				1		4	
	富士見	1							2	1				2	6	
	北橘										1	1		3	5	
	その他														1	33
群馬	渋川							2	2					7	12	
	群馬													1	1	
	榛名・箕郷					1			2					4	7	
	綿貫			2				2		2	1	1	1	3	12	
	佐野・倉賀野	2	3	1					2	2				6	16	
	山名							2		3					5	
	その他		1					2		3	1			5	12	65
緑野	白石	3						1	1	2	2		1	1	11	
	本郷	1	1			1		1	3	3	2			2	14	
	その他									1					1	26
甘楽	吉井	1			1			1			2		2	2	9	
	甘楽										2	1	1	4	8	17
碓氷			2						1	1	1	1	3	1		10
片岡	八幡	1	1			1	1	1	5	1		1	1	3	16	
	片岡								1		1		1	4	7	23
那波		3	1		1			2						4		11
佐位	伊勢崎							2				1	1	6	10	
	赤堀							3			3	1	1	7	15	
	境・東								1	1				3	2	
	その他								1						1	31
新田	太田	1	1						1				2	3	8	
	新田		1					2	1	1		1		1	7	15
邑楽								1		3	1		2			7
山田		1						1	1	1				2		6
その他				2					1	1		1				5
合計		14	13	6	1	4	1	25	27	28	24	13	18	87		261

合計は39口である。円頭大刀は26口を確認し、そのうちの7口が金銅装、14口が鉄装であった。圭頭大刀は27口が、頭椎大刀は28口が出土した。方頭大刀は24口、蕨手刀は13口である。その他の大刀では金銅製・水晶製三輪玉が10遺跡から出土している。そのほかに捩環頭大刀が4口と伊勢崎市台所山古墳出土の象嵌の施された刀装具を伴う素環頭大刀が1口、多野郡吉井町城古墳出土の立鼓柄共鉄造大刀1口がある。これに部分的な刀装具を出土した遺跡が87遺跡あり、現時点での総計は261口となっている。

今回の調査においては数例ではあったが新たな資料を追加することができたものの、出土地名表に記載された内容の多くは既に先学により公表され、分析、評価の下されたものばかりである。また、この集成作業を通じて上野地域における装飾付大刀出土古墳の様相の分析もおこないたかったが、努力不足のため先学の研究成果をなんら越えることができなかった。今後も出土地名表の補足作業を継続しつつ、これに金銅製馬具や金銅製装飾品、金属製容器などの調査も加味し、これらの遺物組成を通して上野地域の古墳時代後半から律令制施行までの間の社会の動向を把握することに努めたいと考える。

この小文を草するにあたり、多数の方々にお世話いただいた。末文ではありますが芳名を記して感謝の意を表します。

赤沢威、浅井良子、五十嵐信、伊藤晋祐、置田雅昭、鬼形芳夫、小山末吉、神戸聖語、塩月美智子、志村哲、新藤彰、神保侑史、瀧瀬芳之、谷口康浩、中里和弘、永峯光一、生巣由美子、野田安平、原田恒弘、平野進一、前原豊、松村一昭、松村永子、水田稔、宮内好美、山内紀嗣、山下歳信、（敬称略、五十音順）　また、群馬県埋蔵文化財調査事業団の多数の職員には平素から多くの援助と教示を受けている。改めてお礼申し上げます。

註

注1　今回、本稿で取り上げた装飾付大刀は、単竜・単鳳、双竜・双鳳、三累（繋）、三葉、獅嚙、鶏冠頭の各種環頭大刀、円頭大刀、圭頭大刀、頭椎大刀、方頭大刀、蕨手刀が中心となっている。そのほかに捩環頭大刀や三輪玉の存在についても一部ふれたが、鹿角製の刀装具についての集成作業は欠落している。また、これらの各種大刀の検討に当たっては次の研究成果を引用・参考にしている。

単竜・単鳳環頭大刀・・新納泉「単竜・単鳳環頭大刀の編年」　『史林』65－4、1982、穴沢咏光・馬目順一「日本における龍鳳環頭大刀の製作と配布」1986

双竜・双鳳環頭大刀・・久美浜町教育委員会『湯舟坂2号墳』1983、

三累（繋）環頭大刀・・穴沢咏光・馬目順一「三累環頭試論」『古文化論叢』1985

三葉環頭大刀・・穴沢咏光・馬目順一・今津節生「会津大塚山古墳出土の鉄製三葉環頭大刀について」『福島考古』30　1989

獅嚙環頭大刀・・穴沢わ光・馬目順一「獅嚙環頭大刀試考（改稿版）」1985

円頭大刀・・瀧瀬芳之「円頭・圭頭・方頭大刀について」『日本古代文化研究』創刊号　1984橋本博文「金銀象嵌装飾円頭大刀の編年」『考古学ジャーナル』266　1986

圭頭大刀・・瀧瀬芳之前掲書

頭椎大刀・・穴沢咏光・馬目順一「頭椎大刀試論」『福島考古』18　1977、　新納泉「関東地方における前方後円墳の終末年代」1984、　桜井達彦「頭椎大刀の編年に関する一考察」『比較考古学試論』1987

方頭大刀・・瀧瀬芳之前掲書

蕨手刀・・石井昌国『蕨手刀』1966

全般あるいは多種にわたるもの・・末永雅雄『日本上代の武器』1941、町田章「環頭切の系譜」『研究論集』III　1976、町田章「環頭大刀二三事」『山陰考古学の諸問題』　1986、　新谷武夫「環状柄頭研究序説」『考古論集』　1977、新納泉「装飾

付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』119　1983、新納泉「戊辰年銘大刀と装飾付大刀の編年」『考古学研究』135　1987

注2　は本孔周辺の象嵌については、臼杵勲氏の研究成果がある。「は本孔をもつ鉄刀について」考古学研究31－2　1984

注3　河上邦彦「総論－副葬品概論」『古墳時代の研究』8　1991では藤ノ木古墳出土の捩り環頭大刀についてその指摘がなされている。

注4　右島和夫「副葬品の地域性－」『季刊考古学』28　1989に述べられている。

注5　郡域の想定については、『大日本地名辞書』や行政上の郡域の変遷などを参考としたがあくまでも仮の地域区分である。古墳時代の集落・生産遺跡、古墳の分布の検討結果からそれが導き出されることが本来的な在り方であると痛感している。

本稿は群馬県埋蔵文化財調査事業団平成3年度職員自主研究助成の成果の一部である。

引用文献一覧

1．京都大学『近江国高島郡水尾村鴨の古墳』1911
2．国学院大学所蔵神林淳雄資料
3．藤岡市教育委員会『平井地区1号墳発掘調査中間報告』1991現地説明会資料
4．藤岡市教育委員会『皇子塚古墳』1989
5．柴田常恵「上野藤岡町の諏訪神社古墳」『東京人類学会雑誌』288・299　1910
6．桐生市『桐生市史』上巻　1958
7．玉村町『広報たまむら』第221号　1989
8．大野延太郎「上野国佐波郡芝根村発見古器物」『東京人類学会雑誌』206　1903
9．群馬県立歴史博物館『群馬県立歴史博物館所蔵目録』考古　1990
10．穴沢わ光・馬目順一「単龍・単鳳環頭大刀の編年と系列」『福島考古』27　1977
11．『山田郡誌』　1939
12．久美浜町教育委員会『湯舟坂2号墳』1983
13．柴田常恵「上野武蔵の古墳及び先史遺跡」『東京人類学雑誌』230　1905
14．群馬県立歴史博物館友の会『古墳めぐりハンドブック』1986
15．『安中市誌』1964
16．穴沢咏光・馬目順一「東北地方出土の環頭大刀の諸問題」『福島考古』19　1978
17．山内紀嗣「天理参考館所蔵の金銅装頭椎大刀」『天理参考館報』第3号　1989
18．後藤守一『原始時代の武器と武装』1928
19．『新田町誌』（上）1987
20．相川龍雄『佐波の史蹟』　1928
21．『上毛古墳綜覧』1938
22．伊勢神宮『神宮徴古館・農業館』1983
23．穴沢咏光・馬目順一「三累環頭試論」『古文化論叢』1985
24．穴沢咏光・馬目順一・今津節生「会津大塚山古墳出土の鉄製三葉環頭大刀について」『福島考古』30　1989
25．穴沢咏光・馬目順一「獅嚙環刀試考（改稿版）」1985
26．徳江秀夫「飾り大刀の世界」『群馬風土記』Vol21 1991
27．長谷川勇・石橋桂一「諸井家寄贈考古資料」『本庄市立歴史民俗資料館紀要創刊号』1986
28．瀧瀬芳之「大刀の佩用について」『埼玉考古学論集』1991
29．高崎市教育委員会『山名原口II遺跡』1991
30．瀧瀬芳之「円頭・圭頭・方形大刀について」『日本古代文化研究』創刊号　1984
31．日本窯業史研究所『長久保古墳群調査略報』
32．町田章「環頭大刀二三事」『山陰考古学の諸問題』1986
33．橋本博文「金銀象嵌装飾円頭大刀の編年」『考古学ジャーナル』266　1986
34．赤堀村教育委員会『吉沢峯古墳発掘調査概報』1985
35．群馬県埋蔵文化財調査事業団『下触牛伏遺跡』1986
36．『板倉町史』考古資料編1989
37．群馬県教育委員会『群馬県遺跡台帳』西毛編　1972
38．赤堀村教育委員会『洞山古墳群及び縄文住居跡発掘調査概報』1987
39．高崎市教育委員会『引間遺跡』1979
40．群馬県埋蔵文化財調査事業団『奥原古墳群』1983
41．『富士見村誌』1954
42．群馬県埋蔵文化財調査事業団『年報』10　1991
43．『上毛及び上毛人』214　1935
44．柴田常恵「上野国八幡村山名の古墳発掘品」『人類学会雑誌』294

45. 桐原健「頭椎大刀佩用物の性格」『古代学研究』56　1969
46. 群馬県『群馬県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第三輯　1936
47. 松田鑛「神宮什宝金鞘の大刀」『上毛及上毛人』221 1935
48. 相川龍雄「小角田前古墳考」『上毛及上毛人』198 1933
49.『明和村誌』
50. 徳江秀夫「堂山古墳出土の頭椎大刀」『研究紀要』5　群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
51. 桜井達彦「頭椎大刀の編年に関する一考察」『比較考古学試論』1987
52. 末永雅雄『日本上代の武器』1941
53. 群馬大学尾崎研究室『塚原古墳群調査報告書』1955
54. 群馬大学教育学部史学尾崎研究室収蔵資料（目録）1970
55.「上淵名の古墳」『上毛及び上毛人』162 1930
56. 関亀齢「慈眼寺境内前山古墳とその発掘品」『上毛及上毛人』86　1924
57. 北橋村教育委員会『森山遺跡』1986
58. 群馬県教育委員会『上西原・向原・谷津』1986
59. 赤堀村教育委員会『今井北原古墳及び住居跡発掘調査概報告』1980
60. 邑楽町教育委員会『松本23号古墳発掘調査報告書』1989
61. 富岡市教育委員会『横瀬古墳群』1990
62. 沼田市教育委員会『秋塚古墳群Ⅰ』1991
63. 前橋市教育委員会『草作遺跡』1985
64.『川場村の歴史と文化』1961
65.『群馬県史』資料編3 1981
66. 赤堀村教育委員会『洞山古墳群及び北通鷹巣遺跡発掘調査概報』1982
67. 富岡市教育委員会『上田篠古墳群・原田篠遺跡発掘調査報告書』　1984
68. 石井昌国『蕨手刀』1966
69. 福島県立博物館『日本刀の起源展』1988
70. 赤堀村教育委員会『赤堀村峯岸山の古墳』2 1978
71. 三重県教育委員会『井田川茶臼山古墳』1988
72. 大泉町教育委員会『古海原前古墳群発掘調査概報』1986
73.『前橋市史』第1巻　1971
74. 高崎市教育委員会『八幡遺跡』1991
75. 群馬県埋蔵文化財調査事業団『荒砥二之堰遺跡』1985
76.『中川村誌』1955
77.『新田郡宝泉村誌』1976
78. 赤堀村教育委員会『赤堀村地蔵山の古墳』1 1976
79. 群馬県埋蔵文化財調査事業団『国分境遺跡』1990
80. 赤堀村教育委員会『今井北原古墳及び住居跡発掘調査概報』1980
81. 赤堀村教育委員会『八幡林古墳群及び縄文住居跡調査概報』1981
82. 赤堀村教育委員会『赤堀村地蔵山の古墳』2 1978
83. 吾妻郡吾妻町教育委員会『金井廃寺遺跡』1979
84.『粕川村誌』1972
85. 群馬県埋蔵文化財調査事業団『清里・長久保遺跡』1986
86. 前橋市教育委員会『青柳寄居遺跡発掘調査報告書』1984
87. 粕川村教育委員会「西原古墳群」1985
88.『吉井町誌』1974
89. 東京国立博物館『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東Ⅱ）1983

附表　上野地域における装飾付大刀出土地名表

1992.6　作成
遺構名中の『綜』は『上毛古墳綜覧』を表わす
文献中の実測は筆者が実測図作成。
文献中のNo.は引用文献一覧のNo.と一致する。

A．単龍・単鳳環頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1		伝勢多郡南橘村出土		金銅製	圭頭大刀、耳環12、切子玉、空玉、鉾石突、馬具鞍金具・轡・鈴杏葉・金銅製杏葉、青銅製鈴、石製模造品	図1—8	9・10 実測
2		伝高崎市倉賀野町出土		金銅製		図1—2	1
3		高崎市倉賀野町正六出土		金銅製		図1—1	実測
4		高崎市若田町出土		金銅製	変形五神四獣鏡	図1—3	2・89
5	諏訪神社古墳 （綜藤岡町3号）	藤岡市字東裏甲495	前方後円、58m	金銅製	銀環1、直刀2、鉄鏃、弓筈金具、甲冑、馬具轡、壺鐙2、雲珠2、須恵器		5
6	皇子塚古墳 （綜平井村580号）	藤岡市三ッ木字東原247	円、31m	金銅製	耳環、ガラス小玉、弓両頭金具、馬具	図1—4	5
7	藤岡市平井地区1号墳	藤岡市三ッ木字東原	円、30m	金銅製	円頭大刀、耳環、鉄鏃、挂甲小札、馬具？、須恵器		3
8	白石二子山古墳か	藤岡市大字白石字滝1862	前方後円、57m	不詳			
9	綜吉井町23号墳	多野郡吉井町大字長根字西場脇751	円、15m	金銅製		図1—7	10
10	房子塚古墳 （綜芝根村9号）	佐波郡玉村町下茂木房子塚甲574	前方後円、45m	金銅製	耳環20、直刀6、銀製弓筈1、銅釧1、鉾先2、鉄鏃45、銅椀、勾玉5、管玉2、ガラス小玉4、須恵器5	図1—6	8
11	大塚越古墳	佐波郡玉村町大字小泉字大塚越	前方後円、45m	金銅製	金環、銅製鈴、ガラス小玉・切子玉		7
12		佐波郡玉村町茂木出土		不詳			
13		太田市南金井丸屋敷出土		金銅製			11
14	加茂神社古墳 （綜桐生市7号）	桐生市境野町三丁目三ッ堀1361	円、17m	金銅製		図1—5	6

B．双龍・双鳳環頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	大日塚古墳 （綜芳賀村11号）	前橋市五代町字大日塚249	円、33m	金銅製	圭頭大刀、円頭大刀、渦文鏡、金環2、土製小玉14、金銅製馬具、須恵器、金銅製飾金具（天冠か）	図1—12	2・13
2		勢多郡粕川村月田字塚原		不詳			12
3		高崎市倉賀野町大道南出土		金銅製		図1—9	12
4	綜倉賀野町49号	高崎市倉賀野町下町甲大道南甲3121他	円	不詳	いずれかが3の環頭か		21
5	綜倉賀野町73号	高崎市倉賀野町下町甲大道南3160	円、21m	不詳			21
6		伝旧碓氷郡八幡村（現高崎市八幡地区周辺）		金銅製	頭椎大刀		22
7		群馬郡出土		金銅製			16
8		伝藤岡市小林出土		金銅装			17
9		安中市大字嶺字場地735		金銅製	金環2、銀環4、直刀7、鍔2、鈴6	図1—13	15
10		伝安中市原市出土		鉄地金			14

番号	遺構名	戸在地	出地古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
11	オトカ塚古墳（綜芝根村2号）	佐波郡玉村町下茂木前通り283	前方後円、50m	被製か不詳			20
12		太田市成塚出土		不詳			12・18
13	二ッ山1号墳（綜生品村1号）	新田町天良近開発167他	前方後円、74m	金銅製	圭頭大刀、鉄鏃、鉄斧、鉾先・石突、馬具轡・杏葉・雲珠・鈴	図1—11	19

C．三累環頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	綜倉賀野町185号墳	高崎市倉賀野町字大応寺甲357乙	円、22m	青銅製	ガラス製勾玉1・丸玉7、金環9、刀子1、直刀7、馬具壺鐙・鐙鞍・鞍3	図2—1	23
2	観音山古墳	高崎市綿貫町字観音山1572	前方後円、97m	銅装	頭椎大刀、捩環頭大刀、獣帯鏡1、神獣鏡1、金銅鈴付大帯、銀空玉31、金環9、銀環4、ガラス玉53、鹿角柄刀子7、刀子9、鉈1、鑿3、鑷子1、直刀2、銀装刀子5、鉾身・石突共11、鉄鏃、冑1、籠手、臑当、胸当、挂甲小札、金銅製馬具、銅製水瓶、金銅半球形飾金具125、金銅円板形座金6、銀留金具3、銅筒形金具2、鉄吊金具3		23・29
3	綜滝川村2号墳か	高崎市下滝町前山26	前方後円、47m	金銅装			23
4		多野郡吉井町出土		金銅製		図2—3	23
5		伝群馬県内出土		金銅製		図2—2	23
6		群馬県内出土		鉄製		図2—4	23

D．三葉環頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1		佐波郡玉村町下茂木出土		金銅製		図2—9	24

E．獅嚙環大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	綜大胡町39号墳	勢多郡大胡町大字横沢字柴崎89	円、15m	金銅製		図2—6	25・26
2		伝高崎市若田町出土		金銅製		図2—7	25・27
3		群馬郡榛名町里見出土		金銅製		図2—8	2・25
4		藤岡市本郷出土		金銅製		図2—5	25

F．鶏冠頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	観音塚古墳	高崎市八幡町後観音1031他	前方後円、91m	銀装	内行花文鏡、神獣鏡、獣形鏡、五鈴鏡、金環14、銀釧1、鍍金銅器2、銅椀2、圭頭大刀2、刀子3、鉾1、弓1、鉄鏃、挂甲、金銅製馬具、鉄地金銅貼馬具、斧、鉋、鑿、釘、鋏、銅製鋲、銅釘	図2—10	30・65

G．円頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	大日塚古墳	前橋市五代町大日塚249	円、33m	金銅製	双鳳環頭大刀、圭頭大刀		89
2	綜荒砥354号墳	前橋市富田町字漆田林1679-10	円、40m	金銅製	星雲文鏡、金環1、鉄環3、直刀、鉄鏃、刀子、馬具轡、革、青銅製鈴	図3—6	2・89
3		高崎市山名町出土		金銅装		図3—3	2・30
4		高崎市上豊岡町字台959地蔵堂床下		金銅装	滑石製棗玉2、水晶製切子玉1、金環12、銀環1、青銅製釧2、直刀1、滑石製紡錘車	図3—2	2・30
5	原口II遺跡2号古墳	高崎市山名町字原口	円、16.5m	鉄製象嵌	円頭大刀の把頭あるいは鞘尻金具か 鉄製鍔、ガラス製小玉、土製小玉、水晶製切子玉、勾玉、管玉、垂飾品、金環、挂甲小札、刀子、馬具、鉄鏃、須恵器		29
6		高崎市岩鼻町出土		鉄製象嵌		図2—13	2・33
7		高崎市付近出土		鉄製象嵌		図2—12	2・33
8		伝高崎市付近出土		鉄製象嵌		図2—17	2・33
9		高崎市岩鼻火薬所内出土		鉄製象嵌			18・33
10		藤岡市本郷出土		鉄製象嵌		図2—16	30・33
11	平井地区1号墳	藤岡市三ッ木字東原	円、30m	鉄装象嵌	単鳳環頭大刀		3
12	県台帳№2832遺跡	多野郡吉井町神保南高原296	円か	不詳	鈴釧、銅釧、金環、小玉、切子玉、石製模造品	37	
13		渋川市石原町付近		金銅製	直刀2、その他刀装具、鉸具		2・89
14	長久保古墳群27号古墳	北群馬郡榛東村新井字長久保	円、9m	鉄製			31
15	綜三郷村88号墳	伊勢崎市安堀町字妙法甲576	円、15m	金銅製	鉄装、方頭大刀、勾玉5、金環7、鉄環2、直刀4	図3—4	2・30
16	台所山古墳	伊勢崎市波志江町字台所山4125	円、30m		須恵器、鉄地銀象嵌環頭大刀、乳文鏡、鉄斧3、刀子5、鉄鏃		89
17	綜赤堀村248号墳	佐波郡赤堀町今井吉沢峯1023	円、不明	鉄製象嵌	金銅装大刀、刀子1、鉄鏃、馬具轡・鉸具、金環7、金銅製中空耳環2		34
18	下触牛伏遺跡1号古墳	佐波郡赤堀町大字下触字牛伏	方、27m	鉄製	蕨手刀、小刀、刀子、鉄鏃、鉄釘、須恵器	図3—5	35
19	綜赤堀町40号墳	佐波郡赤堀町五目牛字北通り88	円、25m	鉄製	方頭大刀柄頭		
20	綜漏芝根14号墳	佐波郡玉村町川井字朝田西9282	円、20m	不詳	直刀、鉄鏃、金環、ガラス丸玉2、鉄製杏葉、金銅製辻金具、金銅製透彫金具残片、須恵器		65
21	萩塚古墳(綜漏芝根村10号)	佐波郡玉村町後箇21	円、25m	不詳	円頭柄頭3出土か、直刀3、小刀1、刀子3、馬具轡1、耳環15、鎌1、鉄斧1、鉄鏃12、須恵器		65
22		新田郡新田町神明出土		鉄製象嵌	綜木崎町8号墳出土の可能性あり	図2—14	19
23		新田郡新田町大根出土		鉄製象嵌	綜綿打村3号墳出土の可能性あり	図2—11	19
24	川内天王塚古墳(綜川内村2号)	桐生市川内三丁目堂谷戸16	前方後円か、28m	金銅装	直刀、鉄鏃、馬具轡、須恵器	図3—1	30・65
25	筑波山古墳(綜伊奈良村1号)	邑楽郡板倉町岩田字可風張2498	前方後円、55m	鉄製象嵌	金環、銀環、水晶製切子玉9、瑪瑙製勾玉2、馬具、鉄鏃	図2—15	36

H．圭頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	大日塚古墳	前橋市五代町大日塚249	円、33m	金銅製	双鳳環頭大刀、円頭大刀	図5－5	2・89
2	綜荒砥村290号墳	前橋市二之宮町字八王子2515	円、33m	金銅製	鉄製鍔、切羽	図5－13	2・89
3		伝勢多郡南橘村出土		金銅装		図5－12	9、実測
4	鎧塚古墳（綜富士見村25号）	勢多郡富士見村大字時沢字鎧塚2636	円、20m	金銅装	耳環3、勾玉5、切子玉10、管玉3、臼玉67、小玉57、嚢玉11直刀1、鉄製鍔	図5－14	41
5		高崎市旧倉賀野町出土		金銅装		図4－2	2・30
6		伝高崎市乗附町出土		金銅装	直刀2		89
7		高崎市（佐野村）出土		金銅製		図5－11	2
8	観音塚古墳	高崎市八幡町後観音1031他	前方後円、91m	銀装	鶏冠頭大刀	図5－1	28・65
9	観音塚古墳			銀装	鶏冠頭大刀	図5－2	28・65
10	（観音塚古墳）			銀装			90
11	引間遺跡1号墳	高崎市上豊岡町字引間	円	金銅製	馬具轡、耳環5、鉄鏃、須恵器	図5－3	39
12	少林山台遺跡4号古墳	高崎市鼻高町字台	円	金銅製	ガラス小玉、須恵器		40
13		伝群馬郡箕郷町		金銅装		図4－1	30・52
14	奥原古墳群15号墳	群馬郡榛名町本郷字奥原	円、13m	金銅装	管玉2、勾玉9、小玉23、切子玉5、琥珀製嚢玉5、金環9、鉄鏃、土師器	図4—5	40
15	戸塚神社境内古墳（綜神流村1号）	藤岡市上戸塚字熊野363	前方後円、70m	金銅装	銀環2、鉄鏃2、刀子1、土師器、須恵器、青銅製鈴1	図5－10	2・30
16		藤岡市付近出土		金銅装		図4－3	2
17	萩原塚古墳（綜平井村473号）	藤岡市白石字瀧1922	前方後円、46m	銀製	鉄製鍔、鉄鏃、琥珀玉1、丸玉、鈴、馬具		46
18	神流中学校校庭4号墳（綜神流村52号）	藤岡市下栗須字塚合117	円、16m	鏃か	直刀？、耳環3、鉾先、石突、鉄釘		65
19		伝安中市原市出土		金銅製			
20		渋川市石原町付近出土		金銅製		図5－8	2・89
21	長久保古墳群15号墳	北群馬郡榛東村新井字長久保	円、10m	金銅製		図5－6	31
22		佐波郡東村大字小俣方出土		金銅製		図5—4	2
23		佐波郡内出土		金銅製			43
24	業平塚古墳（綜強戸村157号）	太田市成塚字下新田821	円、35m	金銅製	切子玉6、釧2	図5—7	実測
25	二ッ山1号墳	新田郡新田町天良近開発167	前方後円、74m	金銅製	双鳳環頭大刀	図5—9	19
26	塚越古墳	桐生市広沢町四丁目2005	円	金銅装		図4—4	6
27		伝群馬県内出土		金銅装			69

I．頭椎大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	総社二子山古墳（綜総社町11号墳）	前橋市総社町植野字二子山36	前方後円、90m	金銀装	瑪瑙製勾玉4、耳環1、銅製鈴釧1、鉄鏃、須恵器	図6—1	
2	下大屋天神山古墳	前橋市下大屋町		鉄製			54
3	初室古墳	勢多郡富士見村大字初室35	円	金銅製	耳環2、直刀4、鉄鏃、馬具、コイル状の線		89
4	綜高崎市233号墳	高崎市江木町字稲荷廻783	円、16m	金銅製	金環1、銅環4、直刀3、刀子6、鉄鏃、須恵器		89
5	滝川2号墳	高崎市上滝町字前山26	前方後円、47m	金銅装	方頭大刀、円頭大刀、圭頭柄頭刀子、直刀5、刀子2、鉄鏃、嚢玉1、丸玉2、金環4、馬具轡2、鞍磯金具2具分、鞍1対、鉸		89

番号	遺構名	戸在地	出地古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
					具2、雲珠1、辻、金具2、杏葉(九曜文2、f字形2、ハート形2)、馬鐸4、鈴12 飾金具3、須恵器		
6	観音山古墳	高崎市綿貫町字観音山1572	前方後円、97m	金銀装	三累環頭大刀、捩環頭大刀		65
7	漆山古墳出土か	高崎市(佐野村)出土		金銅装	圭頭大刀、ガラス製小玉2、水晶製切小玉1、金環2、銀環3、直刀9、鉄製鍔、須恵器、鈴大6・小15以上	図6－2	2
8	綜倉賀野町99号墳	高崎市倉賀野町下町乙大道南3267	円、21m	不詳			21
9		高崎市貝沢町出土		金銅製			
10		高崎市八幡町周辺出土		金銅製			22
11	隠居山古墳(綜多野郡八幡村51号)	高崎市山名町字下西727	円、16m	銀筋金	直刀3、金環12、馬具杏葉・雲珠、円頭大刀	図7—1	44,実測
12	伊勢塚古墳(綜多野郡八幡村47号)	高崎市山名町字伊勢塚775他	前方後円、30m			21・45	
13	稲荷塚古墳(綜多野郡八幡村59号)	高崎市山名町字稲荷森1018他	円、不明		勾玉		21・45
14	白石二子山古墳	藤岡市大字白石字滝1862	前方後円、57m	金銅装	方頭大刀、金銅製三輪玉4、乳文鏡、渦文鏡、ガラス製丸玉5、水晶製切小玉1、金環9、銀環2、直刀2、鉄鏃、馬具	図6—4	46
15	綜美九里村197号墳	藤岡市大字神田字塚間1340-2	前方後円、33m	金銅装			47
16	綜藤岡町8号墳	藤岡市大小林字野見塚563	円、16m		鉄鏃		45
17		伝藤岡市小林出土		金銅装	双鳳環頭大刀	図6—3	17
18		藤岡市白石出土		金銅製		図7—4	51
19		伝碓氷郡出土		金銅装			51・69
20	楓塚古墳(綜桃野村7号墳)	利根郡月夜野町大字上津字塚原335	円、9m?	金銅製	鉄鏃、刀子、耳環10、翡翠製勾玉1、硬玉勾玉2、瑪瑙製勾玉、丸玉4、棗玉1、ガラス小玉、滑石製臼玉3、金銅製飾玉2		53
21		佐波郡境町上渕名出土		金銅製			55
22	小角田古墳2号墳(綜世良田村37号)	新田郡尾島町小角田前2874	前方後円、100m	金銅装	金環、鉄鏃		48
23	三ツ塚古墳(綜桐生市2号)	桐生市錦町2丁目1291-2	円、10m前後	金銅装	金環、銀環、銅環、直刀、銀象嵌鉄製鍔	図7－5	2・51
24	綜千江田村2号墳	邑楽郡明和村斗会田字稲荷塚718	円か	不明	直刀、耳環、土玉、馬具		49
25	赤岩堂山古墳(綜永楽村1号墳)	邑楽郡千代田町大字赤岩字桜山1037他	前方後円、80m	金銅製	直刀、刀子、鉄鏃、銅釧2	図7—2	50
26	赤岩堂山古墳	同上		金銅製		図7—3	50
28		伝群馬県内出土		金銅装			52

J．方頭大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	向原古墳	前橋市泉沢町字向原	円、28m	銅装		図8－5	58
2	草作遺跡H-4号住	前橋市元総社町1372		鉄製			63
3		勢多郡粕川村大字深津字松原田甲1808出土		金銅装		図9—3	2・30
4	鏡手塚古墳	勢多郡粕川村富士宮213	帆立貝式、28m	不明	金銅製責金具2、同断片1、金銅製足金物、銅製鵐目1		65

番号	遺構名	戸在地	出地古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
5	白山古墳	勢多郡宮城村苗ヶ島字白1660-1	円 不明	不詳	蕨手刀、直刀、鉄鏃、銅椀、和同開珎8	図8—6	30・65
6	綜北橘村128号墳	勢多郡北橘村大字真壁字下遠原256	円	不詳	鉄直刀12、両頭金具、鉄鏃、刀子5、馬具、須恵器		57
7	綜滝川村2号墳	高崎市上滝町字前山26	前方後円、47m	銀製	頭椎大刀、円頭大刀、圭頭柄頭刀子、直刀5、刀子2、鉄鏃、棗玉1、丸玉2、金環4、轡2、鞍磯金具2具分、鞍1対、鈴具2、雲珠1、辻金具2、杏葉(九曜文2、字形2、ハート形2)、馬鐸4、鈴12、飾金具3、須恵器		56
8		伝高崎市乗附町出土		金銅製		図9—2	2・30
9	白石二子山古墳	藤岡市大字白石字滝1862	前方後円、57m	金銅装	頭椎大刀、圭頭大刀、金銅製三輪玉4、乳文鏡、渦文鏡、ガラス製丸玉5、水晶製切子玉1、金環9、銀環2、直刀2、鉄鏃馬具		89
10	綜藤岡町6号墳	藤岡市大字藤岡字外平	円 不明	銅製か		図9—1	2・30
11		藤岡市本郷出土				図9—4	30
12		藤岡市白石出土		銅製		図9—5	実測
13	綜多胡村26号墳	多野郡吉井町大字神保字	円、14m	鉄製		図8—2	実測
14	安坪古墳群出土	多野郡吉井町安坪		銅装		図8—3	実測
15	横瀬古墳群13号墳	富岡市上高瀬字西横瀬、松ノ木谷戸	円、10m	銅製？	刀子、鉄鏃、鉄釘、石製紡錘車、須恵器	図9—8	61
16	横瀬古墳群14号墳	同上	円、13m	銅製	責金具、鉄鏃、土製品、須恵器		61
17	伝安中市原市出土			銅製			
18	秋塚古墳群3号墳	沼田市秋塚町字前原	円、不明	鉄製	直刀、鉄鏃、留金具、耳環、瑪瑙製勾玉・丸玉切子玉、碧玉製管玉、馬具轡、鐙金具一対		62
19		沼田市横塚町曾根628出土		銅・鉄製	刀子、鉄鏃2	図8—1	64、実測
20	綜久呂保村4号墳	利根郡昭和村大字森下字松木71	円、10m	金銅製		図9—6	2・89
21	綜赤堀村199号墳	佐波郡赤堀町大字今井	円、19m	鉄装	直刀(金銅製刀装具付)、金環5、鉄鏃		59
22	綜漏五目牛29号墳	佐波郡赤堀町大字堀下字八幡	円、17m	鉄製			81
23	綜赤堀村40号墳	佐波郡赤堀五目牛字北通88	円、25m	鉄製			66
24	松本古墳群23号墳	邑楽郡邑楽町大字中野字大根1310	円、12m	鉄製	金環2、鉄鏃4、直刀1、円頭か?		60

K．蕨手刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
1	白山古墳	勢多郡宮城村苗ヶ島字白山1660-1	円	鉄装	方頭大刀	図10—5	65・68
2	綜北橘村110号墳	勢多郡北橘村大字真壁字下山田原1650	円、13m	鉄装		図10—6	57
3		高崎市岩鼻町市ヶ原出土		不明			
4	若宮八幡神社境内	高崎市中豊岡町		鉄装		図10—2	68
5		碓氷郡出土		不明			69
6	かもん塚古墳(綜高瀬村14号墳)	富岡市上高瀬字松ノ木戸792	円、28m	鉄装			9

番号	遺構名	戸在地	出地古墳	材質	共伴遺物	挿図番号	文献
7		北群馬郡吉岡町出土		鉄装			69
8	大宮巌鼓神社蔵	吾妻郡吾妻町原町		鉄装		図10—1	68
9		沼田市出土		鉄装			
10	上原古墳（綜殖蓮村68号）	伊勢崎市三和町上原1263-4	円、12m	鉄装	銙帯、刀子、鉄釘	図10—4	65
11	下触牛伏遺跡1号遺	佐波郡赤堀町大字下触字牛伏	方、27m	鉄装	円頭大刀	図10—3	35
12	新田郡新田町出土			鉄装			69
13		群馬県内出土		鉄装			69

L．その他の大刀

番号	遺構名	所在地	出土古墳	刀装具	共伴遺物	挿図番号	文献
1	オブ塚古墳（綜羽賀村48号）	前橋市勝沢町西曲輪420	前方後円、35m	玉纏大刀	直刀4、小刀3、刀子1、鉄鏃、耳環8、土玉1、須恵器、馬具、鐙、刀具		73
2		多野郡吉井町付近		水晶製三輪玉			89
3	白石二子山古墳	藤岡市白石滝	前方後円、57m	金銅製三輪玉	頭椎大刀、方頭大刀		46
4	御三社古墳（綜富岡町2号）	富岡市七日市旧郭1414	前方後円　不明	金銅製三輪玉	直刀、鉄鏃、馬具、土師器、須恵器、水晶製算盤玉、管玉、小玉、臼玉		65
5	築瀬二子山古墳（綜原市町3号）	安中市築瀬字八幡平763	前方後円、77m	金銅製三輪玉	直刀、鉄鏃、挂甲、馬具、耳環、ガラス製勾玉・棗玉、碧玉製管玉、水晶製切子玉・算盤玉・丸玉・小玉琥珀製品、小玉金銅製丸玉、須恵器		65
6	綜後閑村3号墳	安中市下号字山王前219	円	金銅鋳造製三輪玉	鈴鏡、鉄鏃		
7		安中市原市字悪途出土		水晶製三輪玉			89
8	綜漏峯岸山17号墳	佐波郡赤堀町西野字東峯8-3	円、22m	水晶製三輪玉	刀子、鉄鏃、鉄鎌		70
9	鶴山古墳（綜鳥之郷村3号）	太田市鳥山字八幡2140	前方後円、102m	金銅製三輪玉	長方板革綴短甲、横矢引板鋲留短甲、小札鋲留眉付冑、衝角、冑、頚甲、肩甲、鉄剣、直刀、刀子、鉄鏃、鑿、錐、鑓、盾、石製模造品		
10	焼山北古墳	太田市東長岡字焼山北	同、約24m	琥珀玉を飾りとする大刀	鈴鏡、小刀、刀子、鉄鏃		65
11		邑楽郡大泉町大字坂田字前口ノ内		水晶製三輪玉			89
12	観音山古墳	高崎市綿貫町字観音山1572	前方後円、97m	銀象嵌捩環頭大刀	頭椎大刀、三累環頭大刀	図11-1	71
13		高崎市綿貫町字塚合出土		捩環頭大刀把頭		図11-3	89
14	八幡遺跡70号住居	高崎市八幡町		鉄地銀貼捩環大刀把頭			74
15	古海原前1号墳	邑楽郡大泉町古海字原前	帆立貝式37m以上	銀製捩環頭大刀	鉄鏃、刀子、ミニュチュア鉄斧刀子、鉈、馬具轡、辻金具、鉸具	72	
16	城古墳（綜多胡村144号）	多野郡吉井町神保字植松699	円、8m	立鼓柄共鉄造大刀	鉄鏃	図10—7	30

番号	遺構名	所在地	出土古墳	刀装具	共伴遺物	挿図番号	文献
17		高崎市乗附町出土		水晶製三輪玉			89
18	台所山古墳	伊勢崎市波志江町字台所山	円、30m	鉄地銀象嵌環頭大刀	円頭大刀	図11-2	32・33

M. その他の装飾付大刀に係わる刀装具

番号	遺構名	所在地	出土古墳	刀装具	共伴遺物	文献
1	清里長久保古墳群7号墳	前橋市池端町	円、12m	鉄製鐔象嵌		85
2	綜清里村13号墳	前橋市池端町字南耕地一ノ割697	円、不明	金銅製鞘口金具、足金具、鞘尻金具		89
3	山王金冠塚古墳（綜上陽村14号）	前橋市山王町1-13-3	前方後円、52m	金銅製刀装具、鉄製刀装具	金銅製冠、金銅製大帯、冑、鎗、銀環、鉄鏃、馬具、挂甲小札	89
4	朝倉Ⅰ号古墳（綜上陽40号）	前橋市朝倉町旦那坂前1492	円	金銅製鍔鯉口金具・責金具2、金銅製鵐目2		54
5	荒砥二之堰遺跡2号墳	前橋市飯土井町字二之堰	円、15m	鐔に象嵌		75
6	青柳寄居遺跡H-12号住	前橋市青柳町		青銅製足金具1		86
7	綜北橘村80号墳	勢多郡北橘村大字下箱田字滝前59-2	円、不詳	金銅製鐔	直刀、刀子、鉄鏃	57
8	石塚古墳	勢多郡北橘村大字下箱田字瓜山	不詳	金銅製刀装具付大刀		57
9	水泉寺古墳群8号墳	勢多郡北橘村	円	木芯漆塗柄頭？刀装具		
10	土居古墳	勢多郡富士見村米野字土居	円、不詳	金銅製鵐目2、金銅製責金具1、同断片3	刀子、鉄鏃	41
11		勢多郡富士見村大字米野字向張647		金銅製鞘尻金具		89
12	鏡手塚古墳（綜粕川村44号古墳）	勢多郡粕川村月田字富士ノ宮甲213	帆立貝式、32m	金銅製足金具2	直刀5、鉄鏃、刀子、耳環	84
13	壇塚古墳（綜粕川村47号墳）	勢多郡粕川村月田字富士ノ宮甲207	円、25m	環付金具付直刀		84
14	長峯古墳（富士宮古墳）（綜粕川村47号墳）	勢多郡粕川村月田字長峯1918-2	円、11m	円頭柄頭あるいは鞘尻金具、鐔、鞘口金具1、足金具1	鉄鏃	84
15	綜粕川村29号墳	勢多郡粕川村月田字富士ノ宮171	円	金銅製大刀	直刀6、馬具、金環	21
16	西原F-4号墳	勢多郡粕川村深津字西原	円	金銅製足金具2		87
17	西原D-1号墳	勢多郡粕川村深津字西原	円	責金具1		87
18	長山古墳（綜佐野村24号）	高崎市下佐野町寺前521	前方後円、不詳	金銅装大刀		21
19	綜倉賀野町191号墳	高崎市倉賀野町大応寺甲3612他	円、不詳	銀装大刀	小玉、馬具、金環、須恵器、土師器	21
20	ロウソク山古墳（綜倉賀野町19号）	高崎市倉賀野町大字倉賀野駅字宮ノ前134	円、不詳	鉄製鐔象嵌2	直刀、鉄鏃、金環、鉄環、勾玉、切子玉	89
21	伝高崎市倉賀野町付近出土			鉄製鐔象嵌		89
22	高崎市倉賀野町大応寺出土			鉄製切羽象嵌		89
23	高崎市倉賀野町大道南出土			鉄製鐔象嵌		89
24	高崎市出土			刀装具		89

番号	遺構名	所在地	出土古墳	刀装具	共伴遺物	文献
	(岩鼻火薬所内)					
25	高崎市岩鼻町出土			直刀に象嵌		89
26	高崎市綿貫町市ケ原			金銅製刀装具		89
27	綜高崎市233号墳	高崎市江木町稲荷廻783	円、16m	鉄製鐔象嵌	頭椎大刀	89
28	五霊神社古墳	高崎市貝沢町	前方後円、60m	金銅製鏡、縁金具	直刀、金環、銅鋺、金銅製馬具	89
29	三本山古墳	高崎市小八木町西久保330	円、25m	金銅製責金具2、足金具2、釘、須恵器	直刀5、小刀2、鉄鏃、銅鋺、鉄	76
30	若田B号墳(綜碓氷郡八幡村12号)	高崎市若田町大塚443	円、14m	鉄製鴛目	刀子、鉄鏃、金銅製馬具	65
31	大塚古墳	高崎市剣崎町	円か	金銅製鏡		89
32		高崎市剣崎町		刀装具一括		89
33	御部入7号墳	高崎市乗附町	円	刀装具	刀子、鉄鏃	65
34	御部入8号墳	高崎市乗附町	円、不詳	銅製足金具・責金具	鉄鏃、鉄釘、銅製巡方2、須恵器	65
35	御部入17号墳	高崎市乗附町	円、不詳	金銅製責金具	鉄鏃	65
36	伝高崎市乗附町出土			金銅装双脚足金具付大刀		89
37	国分境遺跡C区51号住居	群馬郡群馬町字北原		足金具		79
38	奥原古墳群13号墳	群馬郡榛名町字奥原	円、12m	銀製柄頭3振	直刀1、小刀2、小玉6、勾玉3、管玉2、切子玉2、金環6、鉄鏃25、須恵器	40
39	奥原古墳群37号墳	群馬郡榛名町字奥原	円、不詳	金銅製鴛目金具、責金具、環付金具	鉄鏃46、金環2、須恵器	40
40	奥原古墳群52号墳	群馬郡榛名町字奥原	円、12m	刀装具	鉄鏃、刀子	40
41		群馬郡榛名町大字高浜神社広開戸411		鉄地金銅張鏡、鐔		89
42	白石二子山古墳	藤岡市白石字瀧1862	前方後円、57m	金銅製刀装具		89
43	伝藤岡市三本木出土			鉄製鐔象嵌		89
44	藤岡市藤岡字外平			刀装具		89
45	ホウリウ塚古墳(綜吉井町67号)	多野郡吉井町大字本郷字住居石橋432	円、10m	鉄製鐔象嵌	刀子、勾玉1、棗玉1	89
46	一本杉古墳	多野郡吉井町大字神保	円、12m	金銅製刀装具	直刀2、刀子、金環、馬具、小玉、鉄鏃、須恵器	88
47	上田篠古墳群2号墳	富岡市上田篠	円、18m	銅製鴛目	直刀、鉄鏃、耳環	67
48	横瀬古墳群4号墳	富岡市上高瀬字西横瀬	円	金銅製責金具2、金銅製縁金具1	直刀2、刀子5、鉄斧、鉄鏃、金環4	61
49	横瀬古墳群5号墳	同上	円、9m	足金具	刀子3、小刀、鏃、鉸具、鉄製紡錘車、須恵器	61
50	横瀬古墳群14号墳	同上	円、13m	銅製責金具		61
51		安中市安中字下野尻内城下645		直刀の象嵌		89
52	十二山古墳	渋川市中村字月焼田196	円、不詳	金銅製鴛目・鍔・釣金具	金環4、鉄鏃、刀子	65
53	渋川市石原町付近出土			金銅製装具		89
54	長久保古墳群21号墳	北群馬郡榛東村新井	円、16m	金銅製責金具2		31
55	長久保古墳群29号墳	北群馬郡榛東村新井	円、9m	金銅製責金具1		31
56	長久保古墳群31号墳	北群馬郡榛東村新井	前方後円、52m	小刀、金銅製足金具2、鉄製縁金具、鉄製鏃		31
57	長久保古墳群27号墳	北群馬郡榛東村新井	円、9m	銀製鏃、銀製足金具		31

番号	遺構名	所在地	出土古墳	刀装具	共伴遺物	文献
58	白井南中道遺跡	北群馬郡子持村大字白井字南中道		足金具		
59	下平古墳（綜名久田村8号墳）	吾妻郡中之条町大字平	円、不詳	金銅製鐔・柄間金具・鞘口金具・鞘尻金具・足金具	銙帯、切子玉、ガラス玉、臼玉、碧玉製管玉、馬具	
60	上毛製材敷地内古墳	吾妻郡吾妻町原町	円か	鉄製鞘尻金具、鏑	馬具、勾玉、切子玉、算盤玉、ガラス小玉、臼玉、管玉、鉄鏃	83
61	不動塚古墳（綜桃野村19号）	利根郡月夜野町大字上津字2916	円、10m	金銅製大刀、環状金具、銅製鵐目1、同破片2個分	刀子、鉄鏃	53
62	桜塚古墳（綜桃野村12号）	利根郡月夜野町大字上津字不動2973	円	大刀環状金具1	鉄鏃	53
63	昭和村大字森下字松木出土			鞘尻金具2		89
64	清音1号墳	伊勢崎市茂呂町1丁目376	円、20m	刀装具	鉄鏃、馬具、須恵器	65
65		伊勢崎市茂呂町1丁目391		金銅製足金具		89
66		伊勢崎市豊城町権現前1955			直刀に象嵌	89
67		伊勢崎市豊城町横塚横見2068		金銅製鞘口金具		89
68	綜三郷村74号墳	伊勢崎市波志江町一丁目2833-1	円、20m	刀装具	鉄鏃、金銅製耳環	65
69	伊勢崎市出土			直刀に象嵌		89
70	綜赤堀村199号墳	佐波郡赤堀町大字今井字轟山1144-1	円、不詳	金銅製刀装具付直刀		80
71	綜赤堀村291号墳	佐波郡赤堀村磯神社字峯岸419-6・7	円、不詳	銀装大刀	鉄製耳環	70
72	綜赤堀村247号墳	佐波郡赤堀町大字今井1021	円、不詳	金銅製刀装金具3		34
73	綜赤堀村248号墳	佐波郡赤堀町大字今井1023	円、不詳	金銅装大刀鞘	鉄製円頭大刀柄頭	34
74	綜漏五目牛31号墳	伊勢崎市波志江町字上峯岸	円	鉄地金銅張鞘口金具、金銅製縁金具、金銅製足金具2、金銅製責金具	直刀、金環、鉄鏃、須恵器	81
75	地蔵山古墳群綜漏5号墳	佐波郡赤堀町大字五目牛字下通705-2	円、12m	金銅製品刀装具付大刀		78
76	綜赤堀村3号墳	佐波郡赤堀町大字五目牛字下通691	円	金銅製鯉口状金具、足金具2		
77	雷電神社古墳（綜東村7号）	佐波郡東村小保方字下谷3861	前方後円、50m	金銅装刀装具	乳文鏡、桂甲、直刀、刀子、金環、金銅製中空丸玉2、馬具、鉄鏃、両頭金具	65
78	上淵名雙児山古墳（綜釆女村1号墳）	佐波郡境町上淵名字銀杏957-1他	前方後円、90m	金装大刀	馬具、金環、鉄鏃、須恵器	65
79		佐波郡東村大字東小保方字下谷386		金銅刀装具、銅製鞘尻金具		89
80	綜漏芝根17号墳	佐波郡玉村町川井字諏訪巡860	円、13m	金銅製責金具	鉄鏃、金銅製耳環	65
81	綜玉村10号墳	佐波郡玉村町角渕字深沢2640	円、25m	金銅製鵐目1		65
82	オクマン山古墳（綜宝泉村1号）	太田市脇屋字諏訪下539	円、36m	鉄製刀装具		65
83	四ツ塚甲墳	太田市由良狐森	円か	金銅製鞘飾金具、責金具		89
84	巌穴山古墳（綜毛里田村10号）	太田市東今泉字大美智西752	方、30m	銅？製責金具、足金具	刀2、鉄釘、耳環、須恵器	65

番号	遺構名	所在地	出土古墳	刀装具	共伴遺物	文献
85	兵庫塚古墳	新田郡新田町上田中字兵庫塚	前方後円、50m	環頭大刀柄銀線、銅地金銅貼責金具	乳文鏡、鈴鏡、金銅製鈴、金環、釧、切子玉、勾玉、管玉、ガラス玉	89
86	塚越塚古墳	桐生市広沢町4丁目	円	刀装具		
87	桐生市錦町2丁目出土			鉄製鐔象嵌	頭椎大刀	6